

CSR報告書 2011



発行・お問合せ先

生活協同組合連合会ユーコープ事業連合
広報・コミュニケーション推進部

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-11
TEL.045-472-2504/ FAX.045-472-9085

コープのCSR (社会的責任)

コープは事業が社会に与える影響に責任を持ち、コープにかかわるすべての方々(組合員、職員、パート職員、お取引先、地域の方々)の要求に適切に応え、信頼される組織をめざします。



この報告書は、日本水なし印刷協会の東日本大震災復興支援「義捐金付カーボンオフセット」の仕組みを使い、製造に伴うCO₂排出量をオフセット(相殺)しています。



この報告書は、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場で、古紙配合率100%再生紙、VOC(揮発性有機化合物)発生量の少ない植物油インキ、および水なし印刷を使って作りました。また、この報告書は印刷用の紙へリサイクルできます。



この報告書の内容は、ホームページでもご覧いただけます(<http://www.ucoop.or.jp/>)。なお、下記の項目についてはホームページのみでご紹介しています。

- 環境法令などの順守状況 ●環境データ
- 環境負荷(インプット、アウトプット) ●環境会計

コープかながわ
コープしずおか
市民生協やまなし
ユーコープ事業連合

トップメッセージ

ユーコープ事業連合 理事長
當具 伸一



国連は、2012年を「国際協同組合同年」とする総会決議を採択し、これまでの協同組合の活動を高く評価しました。また、「新しい公共」の論議などで非営利セクターへの期待が高まっています。この背景には、ベルリンの壁崩壊による社会主義計画経済システムの破綻、そして、サブプライムローンの破綻からリーマンショックにいたる過程で明らかになった行き過ぎた市場主義システムの行き詰まりに直面して、あらためて人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現のために、協同組合の価値・仕組みが有効であると多くの人たちが思い始めていることがあります。

協同組合のアイデンティティに関するICA声明では協同組合の価値として「自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。」と定めています。

私たちも協同組合の一員として、「福祉」「地球環境問題」「健康」など、多くの組合員と地域社会が直面している課題に一步一步地道に取り組んでいます。

昨年の「店内調理品ロースカツの不適切な扱い」では多くの消費者や組合員の期待を裏切ることとなり、コープの存在意義が問われました。あらためて皆さまにおわびを申し上げます。組合員理事を中心とする組合員改善委員会からの提言も受け、組織全体で何が問題だったのかをえぐりだし、商品の品質管理をはじめ、働き方そのものを見直してまいりました。改めて法令など社会的ルールや自ら決めたことをしっかり順守するとともに、本来の価値観に立ち戻り仕事をしてまいります。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くの尊い命が犠牲になりました。被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。コープは全国の生協、日本生協連とともに被災地の支援に努めてまいりました。

今回の震災をきっかけに改めて「つながり・絆・助け合い」といった価値観の大切さが、多くの人たちの共通の思いとしてクローズアップされてきました。これらの価値観は協同組合が大切にしてきたものと全く同じであり、これからの社会づくりの中で最も必要とされるものです。

私たちコープは組合員の暮らしを守るとともに行政や地域諸団体・生産者、お取引先とのネットワークを通じて暮らしやすい地域社会づくりに役割を果たしていかなければいけないと強く決意をしております。

統合マネジメント方針

基本理念

『「人-社会-自然」の調和ある平和な社会の実現に貢献する』

基本方針

私たちは、神奈川、静岡、山梨三県の会員生協に加入されている組合員のくらしに貢献するため、商品・サービスの供給事業を中心とした事業活動を進めています。

基本理念の実現に向け事業活動に関わる法令、条例およびその他受け入れを同意した各種の協定等を順守します。さらに事業活動によるさまざまな影響を、食品の安全・品質・環境・コンプライアンス・個人情報保護・安全衛生・男女共同参画の視点から適切に評価し、特に影響が大きな項目については重点課題として取り組みます。また継続的な取り組みとするため、重点課題は定期的に評価し、必要に応じて見直します。

以上、安全・安心、正直、誠実、公開、他人への配慮、安全衛生リスクの低減、汚染の予防を通じて社会的責任経営を確立し、継続的改善を図りながら、組合員のため、地域のため、地球のための取り組みをすすめます。

2011年度経営基本方針

「コープがあつてよかった。これからもずっとコープで!」とっていただける事業と活動を実践しよう。

1. コープの基本理念の理解と実践を通じ、コープを支える職員を育成します。
2. 組合員のくらしに貢献できる事業をすすめ、組合員と組合員の利用を増やすとともに購買事業の収益性を改善します。
3. 組合員が安心してくらす社会の実現をめざし、コープに求められている役割を發揮します。

2011年3月21日施行

この方針は、広く内外に公表します。

生活協同組合コープかながわ	専務理事
生活協同組合コープしずおか	専務理事
生活協同組合市民生協やまなし	専務理事
(代表)生活協同組合連合会	
ユーコープ事業連合	専務理事

*市民生協やまなしでは、基本理念を「平和な社会 人が大切にされるくらし/ (心)ゆたかなくらし/自然と調和するくらし」と表現しています。

ユーコープ事業連合とは

ユーコープ事業連合は、正式名を「生活協同組合連合会ユーコープ事業連合」といいます。神奈川・静岡・山梨県内の6生協(コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなし、うらがCO-OP、全日本海員生協、富士フィルム生協)が、力を合わせ、互いに助け合い、3つの県に暮らす人々のより良い「食」と「くらし」を支えていく組織です。



C O N T E N T S

トップメッセージ	1
目次／編集方針／統合マネジメント方針	2
特集	3
国際社会への貢献 世界に笑顔を届けるために 牛乳1本からできる国際支援「みるくぼきん」 人・社会・自然を大切にしたい「フェアトレードバナナ」	
緊急特集	7
東日本大震災 今、私たちにできること	
安心してご利用いただくために	9
コープの商品	11
地域とのかかわり	14
組合員の活動	16
平和への取り組み/くらしを考える活動 食育、子育ての活動/福祉・助け合い活動 環境活動	
環境の取り組み	22
「2020年に向けたコープの環境基本政策」を 決めました。 環境保全活動/廃棄物の削減	
働く職員とのかかわり	27
コープのコンプライアンス	29
お取引先とのかかわり	30
コープの事業	31
財務報告	33
第三者意見	34

編集方針

コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしはユーコープ事業連合とともにCSR報告書を2007年より合同で発行しています。組合員、職員・パート職員、お取引先などさまざまなステークホルダー(利害関係者)の皆さまへの適切な情報開示とコミュニケーションを重視して、以下の方針で編集しました。

- 「生協の役割と活動」をご理解いただくため、コープの活動に対する考え方、2010年度取り組んだこと、今後のめざす方向性を記載するよう努力しました。
- 透明性・信頼性を高める客観的データの掲載に努めながら詳細はWebでの掲載としました。

【報告対象範囲】本報告書では、特にことわりがある場合を除いては、コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしとユーコープ事業連合の4生協の事業と活動を記載対象としています。

【報告期間】2010年度(2010年3月21日～2011年3月20日)(一部、上記期間以前もしくは以後直近の活動内容も含まれます)

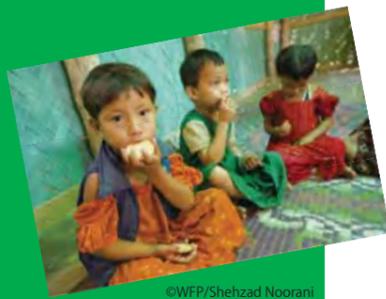
【参照ガイドライン】環境省の「環境報告ガイドライン」、GRIの「持続可能性報告のガイドライン」を参考にしました。

【発行時期】2011年7月
(次回発行は、2012年7月を予定しています)

特集 国際社会への貢献

世界に笑顔をお届けするために

コープは商品を通して組合員のくらしと健康を守ってきました。今後もコープの事業を通じて、消費者・組合員をはじめさらに多くの人々に、よりくらしやすい社会・環境を広げていきたいと願っています。そんな思いで始めた、世界に向けたコープの取り組みをご紹介します。



©WFP/Shehzad Noorani



「みるくぼきん」の対象となるCO・OPマークの牛乳

ユニセフの「アフリカの教育支援プログラム」

ルワンダ、アンゴラ、ジンバブエ、マラウイ、モザンビークおよび南アフリカに4,000の学校の建設と改修を行い、1,800の学校にきれいな水を供給し、先生を35,000人養成するプログラム。

ユニセフ



開発途上国の子どもたちを対象とした総合支援を行っています。150以上の国と地域で子どもたちの生存と健やかな発達を守るため、保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業をその国の政府やNGO、コミュニティと協力しながら実施しています。

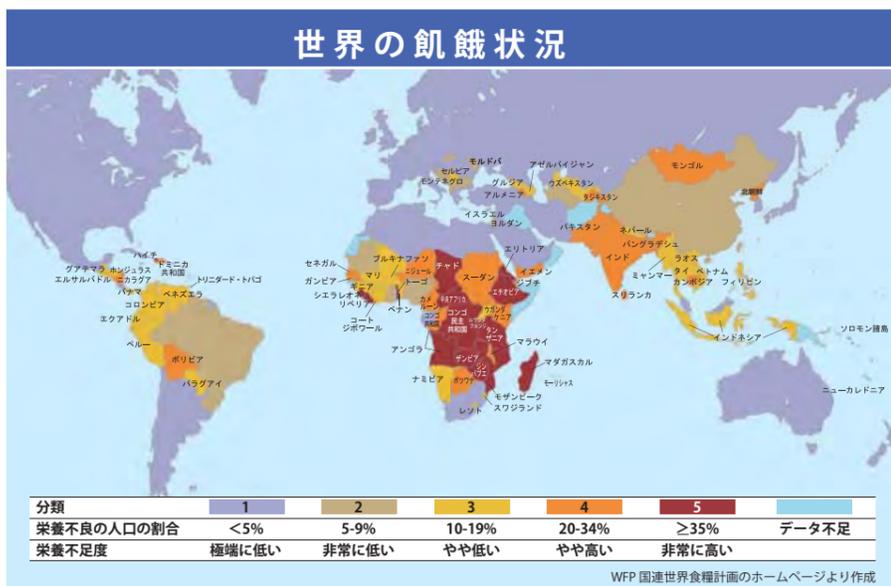
みるくぼきんとは

CO・OPマークの牛乳をご購入いただくと、1リットルにつき1円をコープが寄付する取り組みです。寄付金は、ユニセフのアフリカ教育支援プログラムとWFPの学校給食プログラムを通じて、世界の子どもたちを支援する活動に役立てられます。

牛乳1本からできる国際支援「みるくぼきん」

飢餓に苦しむ途上国の子どもたち

日本の食料自給率はカロリーベースで40%です。60%は外国からの輸入に頼っています。世界全体で見ると、すべての人々が食べるのに十分な食べ物がつくられています。しかし、途上国では1日に1度の食事を食べることもできない家庭がたくさんあります。慢性的な飢餓に苦しむ人は、世界で10億人(世界人口の6分の1)にもなります。このうち3.5億人以上が子どもたちです。



2008年から募金活動をスタート

途上国の子どもたちを救いたい、少しでも役に立ちたいという思いから、2008年、コープは「みるくぼきん」を始めました。毎年3か月間の指定期間を設け、その間のCO・OPマークの牛乳の販売数に応じて、牛乳1リットルにつき1円をユニセフ(国連児童基金)とWFP(WFP 国連世界食糧計画)に寄付しています。

コープでは、より多くの組合員や職員に「みるくぼきん」を広げるために、店舗でのポスターや店内放送、おうちCO-OPの商品カタログ「お買物めも」、ホームページや機関誌でのお知らせを行いました。

組合員・職員が一緒になって「みるくぼきん」に取り組んだ結果、3年間で18,810,082円の寄付を行うことができました。

VOICE

コープしずおか組合員
大石 裕美さん
(静岡県静岡市)

いつも身近にあるコープ牛乳で世界の子どもたちの力になれば、とても嬉しく思います。



「みるくぼきん」の使いみち 1

子どもに優しい学校をマラウイにつくろう。

マラウイという国を知っていますか。アフリカ大陸南東部の内陸にあり北海道と九州を合わせたくらいの大きさで、世界遺産にもなっているマラウイ湖という大きな湖(国の面積の20%も占める)がある共和国です。

コープの2010年度「みるくぼきん」は、ユニセフを通じてこのマラウイの学校プロジェクトに使われました。これにより、学校の教室とトイレの建設、教職員の研修、教室の机・いす、教材の支給などが実現しました。マラウイでは1994年に授業料が撤廃され、無料で初等教育を受けることができるようになりましたが、修了率が25%と低い



©UNICEF/Malawi

ことが悩みでした。特に女の子は16%とさらに低く、その大きな理由は学校のほとんどが質の悪い学習環境にあることでした。

たとえば、トイレの問題は女の子には特に重大です。プライバシーに配慮したトイレがないことは成長期の女の子にとってはとても辛いこと。学校に通うのをためらう原因にもなっているのです。「学校のトイレは大好き!」そう言って、トイレを使い、手洗いをしっかりしている子どもたち。「新しいトイレができて、それも男女別!」学校に井戸やトイレができたことで、学校にくる子どもたちも増えているとのことでした。



©UNICEF/Malawi

心をこめて募金をお届け

2010年度は、6月から8月に募金活動を実施しました。そして、お寄せいただいた募金の中から、ユニセフのアフリカ児童支援プログラムとWFPのバングラデシュ学校給食プログラムに寄付しました。

■「みるくぼきん」募金額

期間	募金額	寄付先	
		ユニセフ	WFP
第1期(2008年10月～12月)	6,609,430円	5,287,544円	1,321,886円
第2期(2009年 6月～ 8月)	6,233,169円	5,000,000円	1,233,169円
第3期(2010年 6月～ 8月)	5,967,483円	4,972,902円	994,581円

VOICE コープかながわ組合員
篠田 哲守さん(神奈川県相模原市)

わが家では毎週コープの牛乳を買って飲んでます。ちよびりですが、「みるくぼきん」を通して、世界の子どもたちを応援していることになりました。募金が世界中から一日も早く不幸な子どもたちをなくすための施策に使われ、その成果が上がるよう心から願っています。




2010年度「みるくぼきん」贈呈式

WFPの「学校給食プログラム」

大豆やとうもろこし粉にビタミン・ミネラルを加えたおかゆなど栄養たっぷりの給食をWFPが提供することで、親が子どもたちを働かせるより通学させることを選ぶようになります。学校給食は子どもたちの発育を助けると同時に教育を受けられる機会を広げます。



国連唯一の食糧支援機関であり、かつ世界最大の人道支援機関です。飢餓と貧困の撲滅を使命として各地で活動を行っています。2007年には80カ国において8,619万人に330万トンの食糧支援を実施。その総支出は30億米ドルに上ります。

牛乳を買うならぜひコープで、おすすめしたいです。

わたしも「みるくぼきん」おすすめします

市民生協やまなし コープちづか店 渡辺 能子

「みるくぼきん」の使いみち 2

栄養強化ビスケットをバングラデシュの子どもたちに届けました。

世界の最貧国の一つに挙げられるバングラデシュでは、5歳未満の子どもの37%(約800万人)が低体重です。また、男女の教育格差が大きく、400万人もの子どもたちが学校に通っていません。

2010年度の「みるくぼきん」は、WFPを通じて「バングラデシュの学校給食プログラム」に使われ、1日1人あたり75グラムの栄養強化ビスケットが学校給食として配られています。このビスケットには成長に欠かせない14種のミネラル・ビタミンが配合され、子どもたちの栄養不足を補うことができます。

学校給食に使われる食品は国によって違います。その国の主食の農産物を使うことが基本となりますが、調理環境や物流状況などの状況を考慮して決められます。単に食料を配るのではなく、経済にも貢献したいからです。

「学校は楽しいよ。みんなと遊べるし、勉強もできる。そ

して、学校に行けばビスケットがもらえるんだ」……この給食は、非常に貧しく、教育の機会も制限されている子どもたちの栄養状態を改善するだけでなく、出席率を上げるために極めて効果的です。親も食費の負担が減るので、幼い子どもを働かせるよりも、学校へ行かせるようになります。学ぶことで子どもたちの未来が開けます。このビスケットは、子どもたちの希望なのです。



©WFP/Shehzad Noorani

わずかな食糧が、子どもの人生を大きく変えます



人・社会・自然を大切にしたい「フェアトレードバナナ」

おいしいだけじゃない、「食」の取り組み

コープの「フェアトレードバナナ」の産地、南米コロンビア。ここ10年ほどで治安は改善しつつありますが、過去の内戦の影響で故郷を離れる人も多くいました。このような人々に住居と仕事を提供し、安定した生活が送れるように、コープはバナナで応援しています。

2010年度、「フェアトレードバナナ」は490,982袋(1億4,144万円)のご利用をいただきました。その売り上げの中から2,020,020円がバナナ農園で働く生産者の組合(FLOTRABAN:バナナ農園労働者基金)に奨励金として支払われました。

このお金の使いみちは、FLOTRABANの総会で生産者自身によって決められます。コロンビア政府の支援も受けながら、2010年の奨励金はバナナ農園で働く100家族(このうち70家族は、内戦のため、もともと住んでいたところから立ち退きを余儀なくされた人たち)の住宅建設や住宅地の下水設備や、また、12月初めにコロンビア北部を襲った大雨による洪水の被害支援などに使われました。

コープの「フェアトレードバナナ」は、森や動物にも貢献しています。コロンビアは熱帯雨林を有する世界でも有数の希少生物の生息地です。自然を破壊して農園をつくるのではなく、かつて放牧地として使用されていた土地を農地に転作し、地域に自生している植物を植えるなど、生物多様性の取り組みも行っています。植物が増えることで、動物の生息地域も広がることが期待できます。

「フェアトレードバナナ」を多くの皆さまにご利用いただくことが生産者の笑顔を生み、さらに森や動物を守り育てることにつながっているのです。

コープの「フェアトレードバナナ」

国際的なフェアトレード認証のエコサート・フェアトレードマーク

森を育て動物を守るレインフォレストアライアンスマーク

バナナ農園で働く人たちとその家族

■支援金の仕組み

バナナ1箱(13kg)の売り上げにつき、85セント(2010年までは75セント)をFLOTRABANへ寄付

フェアトレード(公平貿易)

経済的・社会的に弱い途上国の生産者に対し、その生産活動や生活が成り立つ適正な価格で継続的に取引し、自立をうながす貿易形態。

「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」を全国の生協で取り組み中

日本ユニセフ協会とともに、アンゴラの教育環境の改善をめざすキャンペーン「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」(日本生協連主催)を、2010年11月1日から2011年10月31日にかけて実施しています。

コープ商品のトイレットペーパー「コアノンロール」を1パック販売するごとに、1円をアンゴラ指定募金として積み立て、ユニセフがアンゴラで実施する「チャイルドフレンドリースクール(子どもにやさしい学校づくり)プロジェクト」に役立てていただきます。



コアノンロール

東日本大震災への取り組み 今、私たちにできること

3月11日14時46分ごろ、三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、太平洋沿岸を中心に高い津波による大きな被害がありました。

この東日本大震災ではたくさんの尊い人命が失われ、多くの方が避難生活を強いられています。

お亡くなりになった方々のご家族の皆さまへお悔やみを申し上げます。

東日本大震災に伴うコープの対応

ユーコープは、当日15:00に専務補佐(当時)を本部長とする対策本部を設置し、震災発生直後から地域の皆さまの生活に必要な商品の供給を行うことを使命と考えて業務に当たりました。また、被災された方々の生活支援のための募金活動、支援物資の提供やお見舞い活動など、全国の生協とともに助け合いの心をともにして、被災地の支援に取り組んできました。

コープは商品の調達に全力を尽くしましたが、東北地方から北関東にかけて多くのお取引先が被災され、燃料不足や計画停電が発生したために商品製造から物流機能まで大変な混乱状態となりました。さらに商品が不足したことや福島第一原発事故による放射性物質の拡散による不安感からの「買い急ぎ」が起こりました。危機対応について真摯に学び、教訓として今後に生かしていきたいと考えます。



燃料(軽油)や毛布、ブルーシートなど4万点を越える支援物資をお届けしました



コープしずおかと静岡県生協連では、いわて生協で500人分の豚汁の炊き出しを行いました

被災地の生協への支援

全国の生協と協力して被災地域の生協(コープ東北サンネット事業連合)の支援に取り組みました。東日本大震災支援隊は各10名の職員で構成した第1陣、第2陣がおうちCO-OPのトラックを使って1週間ずつ現地で物流支援・店舗支援などを行いました。

また、ユーコープ保障事業部共済推進課からも2名が、コープふくしまの「CO・OP共済ご契約者訪問活動」の支援に行きました。



支援隊第1陣として10名を1週間派遣

支援隊の出発

支援隊第2陣(10名)

被災地への義援金募金の取り組み



「東日本大震災義援金募金」の活動(コープかながわ 大和市エリア会)

被災地への支援として、震災発生直後から「東日本大震災義援金募金」に取り組んでいます。多くの組合員の皆さまからご協力をいただき、1億7,000万円を超える募金が寄せられました(7月5日現在)。募金は、日本生協連を通して被災者にお届けします。

コープ産直産地へのお見舞い・応援メッセージ

コープの産直産地や関連団体でも多くの被害がありました。コープは組合員とともに産直産地向けの募金と生産者への応援メッセージの募集などを行いました。

「産直関係者への募金」は約4,100万円、応援メッセージは200枚を超えました。募金は、お見舞い金、事業災害支援金としてメッセージカードとともに産地にお届けしました。



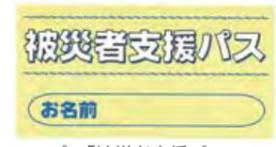
生産者を応援しようと、4月15日、市民生協やまなし ちづか店で「コープ産直産地応援バザー」を開催しました



ユーコープ商品本部長前田祐滋(右)が5月下旬に被災地を訪問してお見舞いを申し上げ、募金をお渡ししました(左は、グリーン・プログラム特別栽培米岩手ひとめぼれの産地 JA岩手ふるさと阿部統括)

被災地から避難されてきた皆さまの応援

被災地から避難されてきた方々への支援として、「おうちCO-OP」の宅配サービス料を無料としました。また、店舗では、被災者支援パスを発行し、レジでご提示いただくとお買い上げ総額から5%をお引きし、お買い物袋を無料でお渡しするようにしました。



コープの「被災者支援パス」

被災地支援セールの実施

「東日本大震災 被災地支援セール」を行い、供給総額(税抜き)の1%相当額を「東日本大震災義援金募金」と合わせて義援金としてお渡します。



被災産地の商品を集合陳列してご案内(コープかながわ ハーモス相模大野)

●CO・OP共済ご契約者訪問メンバー

津波のひどかった地域では、地平線までがれきの光景に愕然としました。共済のご契約者を訪問して組合員一人ひとりと話しました。「お見舞い金をいただけると思わなかった。加入していて良かった」と言われ、「CO・OP共済」は、組合員が困っているときに寄り添うことができるコープ商品だとあらためて肌で感じました。



末高 義子(左)
米谷 洋子(右)



第2陣隊長
ユーコープ
河澄 一志

人々のくらしや思い出は跡形もなく失われており、言葉を失いました。しかし、このような中でも、現地の方々は必死に暮らし、生きようとしていました。そしてコープはそれを支えようとしていました。このことは、被災状況と同じように私の記憶から生涯消えることはありません。復興には時間がかかると予想されます。今も被災地で必死に前に進もうとしている人々がいることを忘れず、今、それぞれの地でできることを行い、前に進むことが私たちの役割だと感じています。

安心してご利用いただくために

「信頼回復のための組合員改善委員会」より最終提言を受けて

コープは、「食の安心」「家計の安心」「くらしの安心」をキーワードに品質保証や危機管理、売り場作りに取り組んできましたが、2010年4月末に起こした「店内調理品ロースカツの不適切な扱い」により、組合員の皆さまをはじめ社会に大変な不安をもたらし、また多大なご迷惑をおかけしました。

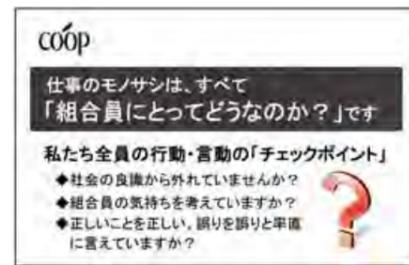
この問題の本質は、総菜部門の業務のあり方だけにとどまらず、組織全体の運営、業務執行・管理の弱さにあったと認識しています。このことを抜本的に改善するため、コープの運営に参画している非常勤の組合員理事を中心とする「信頼回復のための組合員改善委員会」を2010年5月に発足させました。そして、「信頼回復のための組合員改善委員会」から6月に出された第一次提言を踏まえ、今回の事態で問われた問題の改善に全職員で努めています。さらに、2011年3月には同委員会より「最終提言」が出され、それまでの取り組みをより確かなものとして組織の体質を改善するよう課題を提起されました。この課題の実現に向け、4生協の全役職員は今回の問題を絶対に風化させることなく、そして組合員視点を忘れることなく継続して改革を推進してまいります。

全体の取り組み

倫理綱領・自主行動基準の徹底

コープが社会的責任を果たすために重視して取り組むことを定めた「倫理綱領」と、日常業務の遂行にあたって順守すべき具体的な行動を示した「自主行動基準」に沿って日々仕事に取り組んでいます。

- ①職員向け部内報に組織風土の改革に向けた4生協の理事長・専務理事によるメッセージを毎月交代で掲載し、トップの思いを伝えました。
- ②コープで働く全員が「私たちの行動・言動のチェックポイント」を全事業所で毎日唱和しています。



私たちの行動・言動のチェックポイント

FS(食品安全)チーム会の開催

コープが取り扱う食品の安全性を確保・維持・向上させるために、原材料の調達から生産・流通など組合員に届くまでの各段階における安全性確保の活動を検証し、より適切な

仕組みを構築・運用するために月1回関係部局が集まり開催しています。FSチーム会メンバーは、職責に加え食品安全マネジメントに関わる活動を担います。



FSチーム会

リスクマネジメントチーム

危機管理の日常対応と予防措置、事故・緊急事態発生時の対策本部の事務局を担う組織として、リスクマネジメントチームを設置しています。チームはコープ専務理事が指名するリーダーとメンバー、および事務局で構成します。リスクマネジメントチームの役割は、以下の4点です。

- ①組織全体のリスク想定と、予防措置および緊急事態発生時の対応について、整備と進捗管理を進めます。
- ②緊急事態発生時に対応の一次判断を行います。
- ③危機やクライシスについて学習し、対応能力の向上と組織全体の危機管理意識の向上を図ります。
- ④対策本部発足時にはリスクマネジメントチームメンバーが対策本部事務局となり、実務を担います。

チーム会は毎月1回開催され、各部局で発生した案件についての状況の共有と対応内容の適否の検証、学習・演習、マニュアルなどの策定・改定を行っています。

店舗での取り組み

店舗では「店内調理品ロースカツの不適切な扱い」以降、再発させないことを目的に、緊急に衛生教育を行い、品質管理ルールも見直しました。あわせて、店内加工施設の整備と点検なども定期的に行うよう改めました。これらの施策は、形骸化しないよう、P(計画)→D(実行)→C(評価)→A(改善)のプロセスを何度も繰り返していくことにしています。

①職員教育

- 店内調理加工に携わる全職員に食品衛生・表示などマニュアルの教育を実施
- 意識的・継続的に実践されるよう食品衛生・表示に関する自主点検を週1回実施



職員への教育

②ルールの改善・強化

- 誤って、期限の切れた原料や添付品を使用しないよう区分管理を強化

- 開封後の調味料の使用期限管理の明確化
 - 原材料やアレルギーなど仕様書の確認強化
 - 消費期限・賞味期限管理を確実に実施するため、冷蔵品は毎日、冷凍品は毎週、点検・確認を実施
 - 原材料の表示ミス撲滅のため、店舗独自仕様の総菜は製造を禁止
- ### ③店内調理加工施設の衛生管理の向上
- 店内調理加工施設の衛生点検、作業者の意識向上に向けた点検の継続
 - 外部専門業者による施設点検の定期化



廃棄すべき原料は、登録(データ入力)完了時まで廃棄ボックスで保管

※「職員」とは、正規職員・パート職員などコープに関わるすべての従業員をさします。

宅配「おうちCO-OP」での取り組み

おうちCO-OPでは「組合員のために」をカタチにするため、下記の取り組みを推進しました。

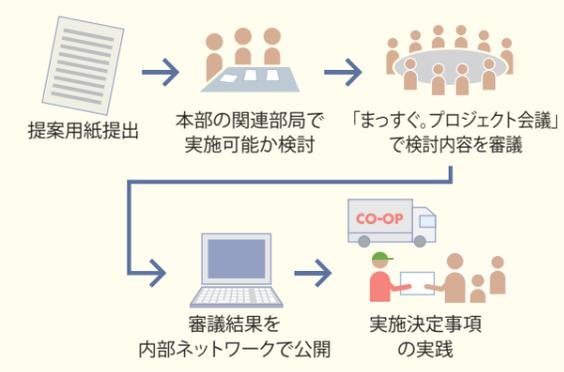
1.「まっすぐ。プロジェクト2010」

「こうしたらもっと組合員に喜んでいただける」という宅配センター発の改善提案を事業で実現していくための取り組みとして、2010年7月から始めました。

目的

- 組合員の声を聞いて要望を知る、感度を向上させる
- おうちCO-OP宅配事業本部が一体となり、コープで働くことの意味を共有化する
- 直接組合員と接する職員の声を大切にして、共同で課題解決を図る土壌をつくる

「まっすぐ。プロジェクト2010」の進め方



2.「あなたにまっすぐ。事例表彰」

おうちCO-OP職員の行動・言動により組合員に喜ばれた事例を集め、優れた事例を表彰しています。

目的

- 組合員の信頼を得る仕事をしている職員を評価する
- 組合員の声や要望に対する感度を高める
- 優れた事例を共有化し、実現につなげる
- 「あなたにまっすぐ」の意味について、おうちCO-OPに関わるすべての職員が理解を深める

3.「組合員のために」のモノサシ策定

コープでは、つねに「組合員にとってどうなのか?」を考えて判断し、仕事を進めることにしています。しかしこれまでは、一人ひとりの解釈やイメージが異なるため、共通の価値観にはなっていませんでした。そこで、おうちCO-OPにおける「組合員のために」の考え方を明確に決めました。これを「おうちCO-OPに関わる全員がモノサシとして共有し、「組合員のために」仕事にあたります。

4.全宅配センターでの対話集会

事業本部長、コープかながわ統括部長、コープしずおか・市民生協やまなし統括部長が全30の宅配センターに出向き、「ロースカツの問題」はなぜ起きたのか、これからどうしていくべきかなど、仕事上で改善すべきことや全員が普段感じていることなどについて意見交換を行いました。開催回数は計125回、参加者数は1,442人にのぼりました。

安心してご利用いただくために

コープの商品

コープは商品を通して組合員のくらしと健康を守ります。商品と商品活動を通して消費者・組合員の意識を高め、よりくらしやすい社会・環境の実現に貢献したいと考えます。

コープ商品の基本にあるもの

コープは「商品を通して組合員のくらしと健康を守ること」を第一に掲げ、組合員一人ひとりに貢献することを最大の使命としてきました。商品ガイドを組合員との約束の書として、お取引先や社会へ表明し、コープは今までもこれからも「コープがあつてよかった」と言われるよう全力で進めます。コープにとって商品や商品活動の持つ意味は以下の通りです。

- ①商品を通して組合員のくらしと健康を守り、充実させていくこと
- ②商品と商品活動を通して、消費者・組合員の意識を高めること
- ③さらにそのことによって、よりくらしやすい社会・環境の実現に貢献すること

商品活動の歴史を通して、組合員の商品に対する要望を「コープで扱う商品5つの願い」としてまとめています。

- ①より安全
- ②より安く
- ③環境に配慮
- ④正しい情報、適正表示
- ⑤組合員参加

コープの商品検査センター

コープの商品検査センターは2010年3月、神奈川県厚木市森の里に移転拡張しました。最新設備と、検査排出物の環境影響に配慮した検査環境を備え、組合員の皆さんに安心してご利用いただけるよう、商品検査、店舗の衛生点検、宅配商品の温度検証などを行っています。また、見学者の受け入れを積極的に行っています。

さまざまな講座を通して家庭の衛生管理やくらしに役立つ実験や情報提供を行っています。遠方の組合員向けに出前学習会を行うなど、組合員や地域のコミュニティーとしての役割も広がっています。

2010年度より、日本生協連の商



子どもたちと一緒に学習や実験を行っています

品検査センターとの連携を強め、検査対象の共同化や分担を行うことで検査の効率化を進めています。

2010年度検査実績

微生物検査数	17,714検体 (2009年度 15,186検体)
理化学検査数 (農薬・食品添加物)	614検体 (2009年度 1,448検体)
店内施設点検	481施設 (2009年度 501施設)

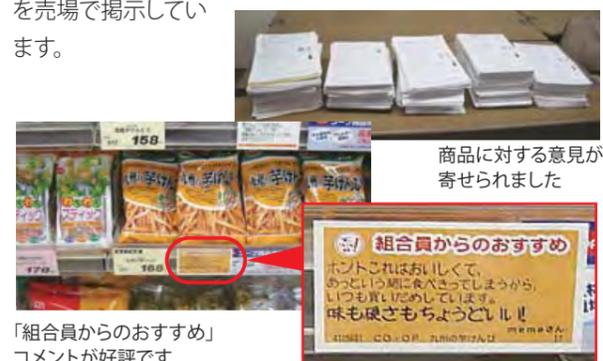
重大事故早期発見チェックリスト

コープでは、店舗、宅配センター、生産・物流施設などすべての事業所に「重大事故早期発見チェックリスト」を掲示しています。各事業所で商品に「いつもと違う」「おかしい」といった異変を感じたら、すぐにこのリストでチェックして、報告する体制を取っています。これを24時間受け付けている品質管理部は、報告が入るとただちに事実確認、危害判定、一次対応、レベル判定を行い、対策・改善などにあたります。2010年度は159件の報告があり、その中から17件は特に重要と判断し、対策を打ちました。

組合員の声を商品に生かす

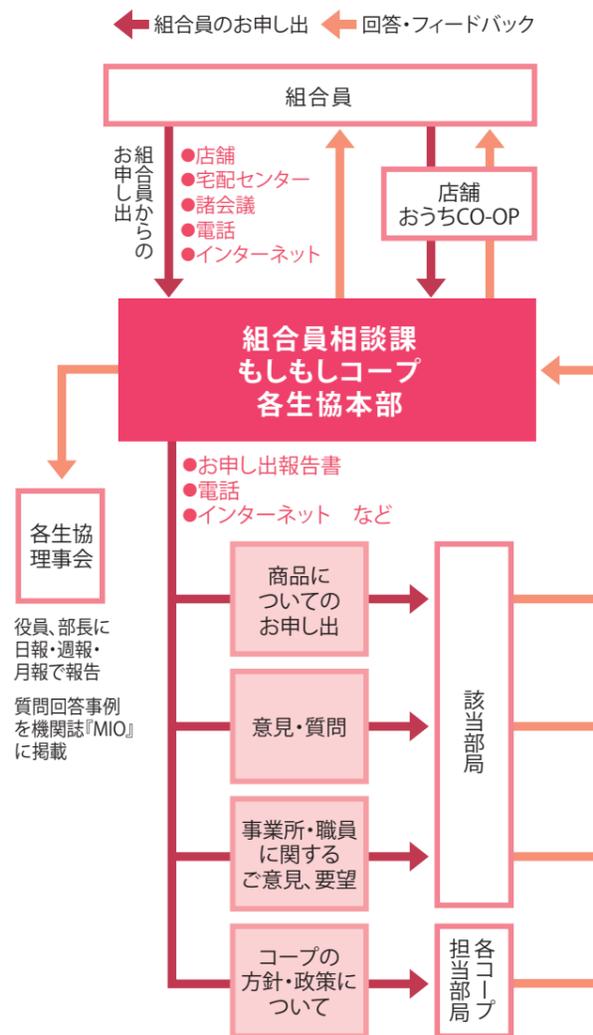
コープは、コープ商品に対するご意見・ご指摘を全国の生協とデータを共有し、商品の改善に生かしています。2010年度はコープ商品50品目についてアンケートを行い10,098人の組合員から149,793件のご意見をいただきました。2011年度も開発予定品を中心にアンケートやWebを使って意見をいただき改善につなげていきます。

また、組合員の皆さんから寄せられた商品についての意見を売場で掲示しています。



「組合員からのおすすめ」コメントが好評です

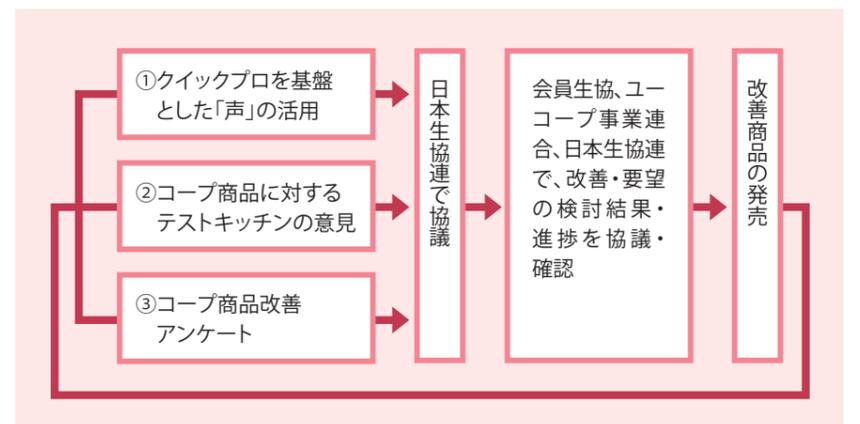
組合員からの声の流れ



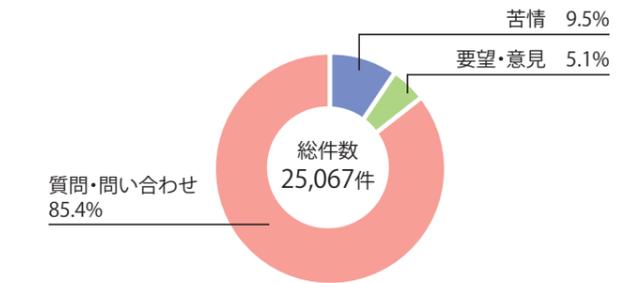
商品に関するお申し出は、全国の生協と共有するデータベース「クイックプロ」のしくみを生かして生協間で事故情報を共有し、共同で問題解決に当たること、リスク予兆の早期発見と、より確実なお申し出対応に役立てています。

コープ商品の開発・改善

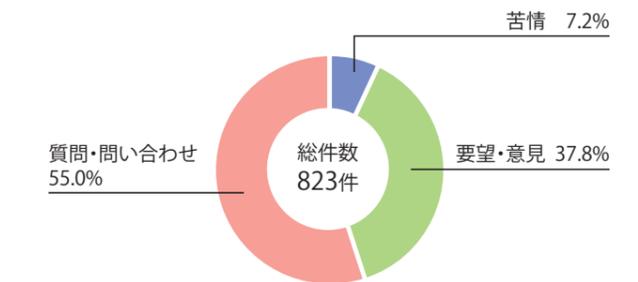
コープ商品は組合員の声で開発され、利用し、意見を出して育てる商品です。2010年度から会員生協・ユーコープ事業連合と日本生協連が共同して組合員から出された「コープ商品への声」をコープ商品の開発改善に生かす取り組みを開始しました。



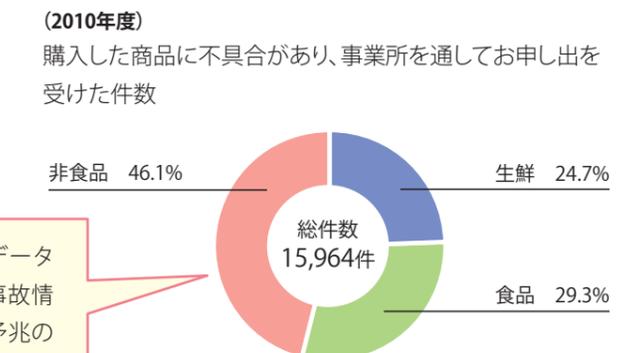
「もしもしコープ」に寄せられた組合員の声 (2010年度)



会員生協本部・ユーコープ本部に寄せられた組合員の声 (2010年度)



商品に関するお申し出 (2010年度)



組合員の声を 改善に生かしました。

1 お買物めもの「お赤飯用あずき水煮」の説明に固形量の表示がないので、実際の豆の分量がわかりませんでした。

説明欄に固形量(100g)を記載するよう改めました。



2 おうちCO-OPの「けんちん・豚汁セット」を開けてびっくり。豚肉が入ってない! 野菜だけだとは思わなかった。

品名を「けんちん・豚汁用野菜セット」に改め、商品の中身をわかりやすくしました。



3 商品を入れる「通い箱」の発泡スチロールの汚れが、気になるな。

宅配センター(商品をお届けするセンター)とセットセンター(商品のセットをするセンター)の両方で、処分基準に沿って汚れた箱を排除することにしました。排除した箱は、溶かしてリサイクル原料とします。



4 CO-OP大豆ドライパック(パウチ)は、このまま食べていいのかしら?

何件かのお問い合わせをいただき「そのまま調理に使える」と表面に表記しました。



5 コープ商品の原材料やアレルギーの情報を携帯でも見ることができるというのですが。

2010年11月から携帯電話でも検索できるように、二次元コードをお店の売り場やポスター、おうちCO-OPの「お買物めも」でご案内しています。



2011年6月21日より、「おうちCO-OP」を利用されている組合員の声を承る「おうちCO-OPサービスセンター」を発足させました。おうちCO-OP宅配センターにお寄せいただく貴重な声を一元管理して、よりご満足いただけるよう改善対応をめざします。

地域とのかかわり

コープは、行政や諸団体・企業とともに、消費者を重視した社会のしくみづくりに貢献します。

食に関する地域活動

■ 地元静岡産・水産品の「地産地消」を推進 コープしずおか

コープでは食を通して消費者の暮らしに貢献するため、「食と食料」政策に取り組んでいます。その一環として、静岡県漁業協同組合連合会と協力し、2010年の秋より大型・中型の19店舗において、地域で水揚げされた鮮魚や地元の水産加工品を専用売場を設けて提供しています。組合員の皆さんに静岡産の生産物の価値を再認識いただき、消費の拡大につなげることが目的です。

専用売場では、地場産品を一か所にまとめ、取り扱い品目も従来以上に増やして提供しています。また、ニギス・ユメカサゴなどの「未利用魚※」についても、食べ方をお知らせしながら取り扱いを始めました。

専用売場では「しずおか地産地消推進協議会」が選定する地元静岡産の食材や加工品の消費拡大を組合員に呼びかけるとともに、漁業従事者との交流も進めています。

この取り組みは、フード・アクション・ニッポンアワード2010「製造・流通・システム部門」に入賞しました。



静岡県産海産物の専用売場(コープしずおか)

未利用魚を原材料とした「あげはんぺん」

2010年12月より、コープしずおかの19店舗で未利用魚を活用したはんぺんの取り扱いを始めています。このはんぺんは静岡県漁連が浜松市の事業者と共同で開発したもので、浜松市の中学生が「あげあげあげはん」と名付け、2011年1月から浜松市の学校給食でも出されています。



あげはんぺんのパッケージ

※未利用魚とは、漁獲量が少ない・大きさが規格に合わないなどの理由で、流通に乗らない魚をさし、漁獲量の14%に上るといわれます。飼料に回され、低価格で取り引きされることが多いのですが、実はおいしい魚も多いです。

■ 「神奈川・食育をすすめる会」の活動

コープかながわ

「神奈川・食育をすすめる会」は、2007年6月、神奈川県内を拠点とする食品小売業者の生活協同組合コープかながわ、相鉄ローゼン株式会社、富士シティオ株式会社三者が、行政、神奈川県立保健福祉大学、お取引先の食品メーカー、食品卸業者とともに立ち上げました。県民の食生活に最も近いところで食品を扱う事業者として、事業と食育活動が一体的に進む状態をつくることをめざして活動しています。

「売場」からの食育情報発信を中心に、県民を対象としたイベント、売場責任者に対する食育勉強会など、特色のある多彩な活動を展開しています。

コープかながわでは、竹山店が横浜市緑区の野菜料理コンクールに協力し、作品募集や店頭での野菜料理の普及活動などを行いました。

また、消費者に接する従業員教育の一環として「食育キャッ



竹山店「緑をたっぷり召し上がり 野菜料理コンクール野菜料理普及活動」(2010年6月19日)

チコピーコンクール」を行い、消費者への食育情報発信に活用しました。この取り組みは、フード・アクション・ニッポンアワード2010「コミュニケーション啓発部門」に入賞しました。



「山梨県食の安全・安心条例(仮称)」 制定に向けた取り組み

市民生協やまなし

「食の安全・安心」の取り組みとして、2011年1月下旬から「山梨県食の安全・安心条例(仮称)」の請願署名に取り組みました。

現在、関東甲信越地方で「食の安全・安心条例」を制定していない県は山梨県のみとなっています。「いつでも、どこでも、誰でも、安全な食品を安心して手に入れ、食べることができること」は、組合員と県民の共通の願いです。市民生協やまなしでは組織を挙げて署名活動に取り組み、個人署名20,100筆、団体署名41筆を集め、県内の消費者団体とともに6月の定例県議会へ請願提出を行いました。

防災・防犯への協力

南アルプス市との災害時における生活必需品 物資の調達に関する協定

市民生協やまなし

2011年1月、南アルプス市と災害時における生活必需品の調達に関する協定書を締結しました。「くらしの安全・安心」は市民・組合員の願いです。万一の時に備えた今回の協定締結は、地域との関係強化と社会貢献につながるものと考えています。地震などの災害時に、一部の例外を除く食料品や日用品を南アルプス市へ供給します。

市民生協やまなしとしては、山梨県(県生協連として地域3生協で締結)、甲府市に続いての協定締結となりました。



南アルプス市との調印式

防犯活動の取り組み

コープしずおか

2011年2月にオープンしたコープ下野東店(静岡市清水区)では、開店に向けた事前訪問活動の中で、新店舗出店のお知らせと併せて地域の防犯活動に取り組みました。

事前に、地域を所轄する清水警察署の担当の方に実施内容(下記①～④)の確認を行い、「地域への防犯などの運動については大に行っていただきたい。歓迎します」との快いお返事をいただきました。

- ①ご年配の方の多い地域のため、訪問活動中にお会いできたご年配の方を中心にチラシをお渡しし、一声掛けを行う。
- ②小学生には、すれ違い時の一声掛けを行う。
- ③訪問時は腕章を着用し、配布用チラシを持参する。
- ④配布チラシは、お話しできた方にお渡しし、留守宅には配布しない。



訪問時は腕章を着用

社会・環境活動での協力

井田三舞店で、地域の中学生と組合員が 「豚汁募金」(モルディブ指定募金)を実施

コープかながわ

1月27日(木)、井田三舞店に社会体験授業で来られた井田中学校の生徒さん(2名)と西中原中学の特別支援学級の生徒さん(6名)、そして幸区・中原区エリアの組合員が一緒になり、ユニセフへの寄付を行う「豚汁募金」に取り組みました。

中学生と組合員で300人分の豚汁を作り、来店された皆さんに「1杯50円以上」で提供しました(最低金額を50円として、それを超過してお支払いいただいた額を募金としました)。これにより1万5,637円の募金が寄せられ、全額を「モルディブのすべての子どもに栄養と未来を」の指定募金としてユニセフに寄付しました。



井田三舞店での豚汁募金

グリーンピアの花卉普及活動

神奈川県内生協・農協の共同出資会社

コープかながわ、うらがCO-OP、富士フィルム生協、ユーコープ事業連合を含む神奈川県内の生協11団体、農協16団体は「平和で緑豊かな環境づくり、生産者と消費者の協同で、みどりと花のあるまちづくり、みどりと花のあふれるくらしづくり、この運動・事業に役立つ流通の仕組みづくり」をめざし、1990年に共同で花卉事業(株式会社グリーンピア)を立ち上げました。

現在県内生産者(JA横浜・湘南・かながわ西湘)による花苗を中心に、毎週おうちCO-OPでの切花・苗のご案内やフラワーギフト、頒布会、園芸用品としての取り扱いのほか、コープの店舗・JA直売所、他生協などでも販売しています。さらに、フラワーアレンジ・ガーデニング講師養成講座(講師資格取得者累計75名)や講習会(参加者累計2,299名)など花卉普及活動に取り組んでいます。



活動の様子



作品



グリーンピアロゴマーク

組合員の活動

コープでは、組合員の皆さんが「食育」「子育て」「くらし」「平和」「環境」「文化」「福祉」などのテーマで、各生協ごとに、あるいは生協の枠を超えて、多彩な活動を行っています。

平和への取り組み

20万筆の署名の行方 ～一人ひとりの声が「核兵器のない世界」の推進力に～

コープは、「平和な社会の実現」をめざし、私たちにできる活動を進めてきました。2007年から取り組みを始め、コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしから延べ20万筆が寄せられた「核兵器廃絶を求め署名」の活動もそのうちのひとつです。

2010年4月、組合員代表4名は、寄せられた20万筆の「核兵器廃絶を求め署名」を持って、署名呼びかけ人である平和市長会議会長・秋葉広島市長(当時)を訪ねました。そして、署名に込められた平和への「ねがい」を秋葉市長に託しました。

この私たちの20万筆の「ねがい」は、2010年5月4日、世界各国から寄せられた102万筆の「ねがい」とともに、NPT再検討会議開催中のニューヨーク国連本部で、秋葉広島市長からNPT再検討会議議長と国連軍縮担当上級代表へと手渡され、核兵器廃絶を願う世界中の市民の声に耳を傾けるよう要請が行われました。

このNPT再検討会議の開催にあわせ、組合員代表7名がニューヨークを訪れ、被爆者の方々とともに学校や教会を訪問し、被爆証言活動の支援や国連ロビーでの原爆展の支援、各国政府代表への要請行動、ニューヨーク市内での平和行進などに取り組みました。

ニューヨークから帰国後、組合員代表は、現地での活動を地域の皆さんに伝え・広げる活動をすすめました。



店舗での署名活動



広島市長(前列右)を訪ね、署名に込められた「ねがい」を託す



「ねがい」をNPT再検討会議議長へ提出
(写真提供:平和市長会議事務局)



ニューヨークで平和行進に参加



国連ロビーでの原爆展



原爆展の支援活動



国内での「伝え・広げる」報告会



なぜ、コープは平和を求め活動に取り組むのでしょうか。

コープは、戦前から各地で事業活動をしていました。しかし、第2次世界大戦時の経済統制のもとで事業自体が成り立たなくなったことや、爆撃による施設の被害が拡大したことなどにより壊滅的な状況に追い込まれてしまいました。

そのため、戦争への反省と平和への強い願いは、戦後の再出発にあたりコープのくらしを守る活動の基盤となりました。

この願いは、経営理念に「平和な社会の実現」としてうたわれ、今日まで引き継がれています。

くらしを考える活動

「くらし」について学ぶ取り組み

コープかながわ

くらしを学習する場として「くらしの見直し学習会」を5回、神奈川県との連携企画「かながわコミュニティカレッジ」を6回開催するなど、広く参加を呼びかける場づくりを進めました。さらに、機関誌「MIO」や「MIOぶらす」などを通して、消費者啓発や、くらしの力を高める学習などにも取り組みました。また、消費者被害啓発パンフレットを作成し、消費者啓発を進めた活動が、消費者庁からも「好事例」として取り上げられました。



くらしの見直し学習会

「家計簿活動」

コープかながわ

年間を通して家計簿提出にご協力いただき家計簿モニターは918名の登録でした。このうち新しいWEB家計簿「家計ドットこ〜ぶ」への登録は56.6%にのぼっています。

集計データは組合員のくらしの実態をとらえ、生活者としてのさまざまな発言をしていただくための大切な資料としています。



家計簿モニター交流会

FP(ファイナンシャルプランナー)入門講座

コープしずおか

LPA(ライフプランアドバイザー)の会が主催し、12月に静岡市で開催し大好評だったFP入門講座を2月に東部地区でも開催しました。

この講座では、現在の厳しい経済状況の中、日々の生活に不安を感じ悩んでいる方に情報提供し、くらしの見直し活動に生かしていただくことを目的としています。最終日のアンケートでは、満足度90%以上と好評でした。



FP入門講座

食品表示学習会

コープしずおか

2009年度に引き続き、静岡県食品表示啓発事業を受託し、県内9ヵ所で、「食品の表示がおもしろいようにわかる入門講座2」を開催しました。食品の表示の見方の学習後、実際にコープ店舗売場(一部ではお買物めも紙面)で実際の表示を確認しました。学習はクイズ形式で行いましたが、「わかりやすく良かった」と好評でした。



店舗売場で商品の表示を説明
(12月9日 コープしずおか
千代田店)



「この表示は○?それとも×?」
(1月12日 コープしずおか
小豆餅店)

「消費生活地域講座」

市民生協やまなし

山梨県委託事業の「消費生活地域講座」を計6回開催し、身近な消費者被害についての情報提供や学習の場づくりを進めました。地域の学校へもチラシを配布し、広く参加を呼びかけました。



第1回消費生活地域講座

■講座内容

第1回	こんな時どうする? 親子で学ぶお金・生活・消費者被害
第2回	消費者力を高めて安心なくらしを!(消費者力アップ講座①)
第3回	くらしのスペシャリストをめざそう!(消費者力アップ講座②)
第4回	こんなときどうする? 親子で学ぶ「お金・生活・消費者被害」
第5回	「身近な消費者問題を学ぼう! ~消費者被害にあわないためには? あってしまったら?~」
第6回	「消費者がつくるこれからの未来 ~消費者市民社会って、なんだろう?~」

※6回計でのべ197名の参加者がくらしの見直しや学習を行いました。

食育、子育ての活動

食育活動

コープかながわ

2010年度は、「伊勢原米作って食べちゃう会」「ヤマのがっこう」「食育体験ツアー」「たべる、たいせつ絵画コンクール」などの食育活動を実施しました。いずれも、親子で体験して学ぶ活動であり、幅広い世代の参加につながりました。



伊勢原米作って食べちゃう会

小学校へ食育講師を派遣

市民生協やまなし

2010年11月15日、甲斐市立竜王東小学校の「大豆からの豆腐づくり」の授業に食育講師を派遣して、食べておいしい本格のざる豆腐をつくりました。子どもたちは自分たちで育てた大豆から豆乳ができることに興味を示し、食べることとつくることの楽しさや大切さを伝えることができました。

2010年度の食育講師の派遣は7件と前年の倍になり、県内の学校との関係強化がいちだんと進みました。



甲斐市立
竜王東小での
豆腐づくり

ちづか店一日店長

市民生協やまなし

甲府市立北西中学校からの要望を受けて、生徒さんの社会体験学習として、2010年8月5・6日の2日間、ちづか店で「一日店長」企画を実施しました。参加した生徒は3名で、お店の仕組みや、接客で大切なことなどの学習と、店内放送・レジ打ちなどの仕事を実際に体験しました。

参加した生徒からは、「お店では、来店されたお客さまに気持ちよくお買い物をしていただくことを一番大切にしてい

る、ということがよく分かりました」などの感想がありました。ちづか店ではその他、地域の学校からの要請に応え、見学や現場実習の受け入れを行っています。



ちづか店一日店長

産地の生産者との交流

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

「コープで体験・学ぶ会」や工場見学を行い、知る・学ぶ・交流する活動を進めました。2010年度は3生協をあわせて2,218名の組合員が延べ74の産地・工場を訪問し、生産者との交流や農作業体験・生産現場の見学などを通じて、相互の信頼関係を深めることができました。

また組合員に「産地の後継者育成募金」の呼びかけを行い、富良野の子どもたちをコープの店舗へ体験実習に招きました。



「コープのぶどう、おいしさの秘密発見ツアー」で中村果実グループを訪問

「コープの生産者とともに報告・交流会」を開催

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

「～食と食料アクションプログラム～コープの生産者とともに報告・交流会」を2010年12月上旬に4会場で開催し、155名の組合員が参加しました。

生産者の皆さんからはコープとともに進めている取り組みについて、組合員の皆さんからは産地確認会に参加した感想などを報告しました。

組合員と生産者の皆さんが同じテーブルで、生産者のご苦労や安全・安心の取り組み、産地の思いを直接伺うことで、親近感もわき、理解を一層深めることができました。



コープの生産者とともに
報告・交流会

「ひとめぼれチャレンジ」と、 稲作り作文コンクール

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

2010年度、コープでは「おこめを作ってみよう!『ひとめぼれチャレンジ』」と題し、コープの指定産地米である「岩手ひとめぼれ」をペットボトルやバケツを使って自宅で育てようという取り組みを行いました。

コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしなど生協から合計700世帯以上の家庭が参加して「岩手ひとめぼれ」の栽培にチャレンジしました。また、これとあわせて実施した「稲作りの作文コンクール」では、稲作りの苦労や楽しさを綴った343点の作品が寄せられました。

遺伝子組換え農産物に関する 意見交換会

コープしずおか 市民生協やまなし

2010年11月24日市民生協やまなし本部で、12月13日にはコープしずおか本部でそれぞれ遺伝子組換え農産物に関する小規模コミュニケーションを開催しました。

市民生協やまなしでは役員を対象に開催し、農林水産省から「遺伝子組換え農産物の現状について」情報提供していただきました。その後、コーディネーターの消費生活コンサルタントの進行で参加者からの質問を受け意見交換を行い、遺伝子組換え技術を応用した研究開発に関する相互理解を深めました。

コープしずおかでは「もっと知りたい遺伝子組換え農産物のこと」として、DNA(遺伝子)の抽出実験の後、農林水産省の職員より、遺伝子組換え農産物についての情報提供が行われ、参加者で意見交換を行いました。「『遺伝子組換えでない』の基準について、なぜ5%以内なのか」「遺伝子組換えの表示について日本も外国も同じ基準・見解なのか」「タンパク質の分解のしくみやアレルギーの要因となる受容体について詳しく知りたい」など活発な話し合いがされました。



「もっと知りたい遺伝子組換え農産物のこと」

子育て応援

コープかながわ

店舗のコミュニティールームなどで開催する「子育てひろば」を12カ所で開催しています。子育てに日々頑張っている皆さんの憩いのスペースです。お子さんたちの遊びを見守りながら、肩の力を抜いてゆったりした時間を過ごします。



子育てひろば

組合員活動のひろがり コープかながわ

2010年度、コープかながわでは「自主・自発」の新しい組合員活動が芽吹き、広がり始めました。子育て企画、キッズ店長、60歳以上ネイルアート、ふれあい食事会、地引網など、さまざまな企画が展開されました。

エリアコーディネーターの活動が、「参加の場づくり」、「定期的な情報提供」、「地域での新たなネットワークづくり」へとつながり、組合員活動への参加者数が拡大するという効果が生まれています。特に保育の回数が昨年の1.5倍に増えるなど、次世代を担う層の参加環境も着実に整いつつあります。



キッズ店長

福祉・助け合い活動

地域を知る活動

コープかながわ

2010年度、組合員による「私たちの地域を知る」活動として多彩な取り組みを推進しました。「防災・減災」学習会や「ふくしdeまちづくり」、地元の「歴史散策ツアー」などを開催し、町の美化、福祉、子育て、平和などの活動を通して地域への考えを深めました。また、「認知症サポーター養成講座」を開催するエリアも増え、地域福祉のネットワークの広がりにつながりました。



「ふくしdeまちづくり」ワークショップ

キッズのための認知症がよくわかる講座

コープしずおか

2010年度、静岡県内の3会場で、親と子が認知症について学ぶ講座を開催し、11家族・19名にご参加いただきました。講座では、子どもたちに認知症について少しでも理解を深めていただけるよう、キャラバン・メイト*の方のご協力による認知症のお話と紙芝居を行いました。寸劇では、「食べたのに『食べていない』と言う」「家に帰りたいと言う」「好きだったことをしなくなる」など10の事例を紹介し、それぞれについて詳しく解説していただきました。参加者からは、親子で一緒に学ぶことで会話が増えてとてもよい、などの感想をいただきました。



キッズのための認知症がよくわかる講座

※キャラバン・メイト
地域でくらす認知症の人や、その家族を応援する「認知症サポーター」を育てるため、自治体などが実施している「認知症サポーター養成講座」で、講師役を務める人をいいます。

カレンダー、コインでユニセフ募金

コープかながわ 市民生協やまなし

コープかながわでは、「カレンダー募金」や「ユニセフ学習会」など組合員の皆さんと、支援活動をより一層広げています。毎年12月開催のユニセフハンド・イン・ハンド募金は、「届けたい。すべての子どもたちに『いのちを守る方法』を」を2010年の募金テーマに、横浜駅西口前にて募金活動を行いました。



カレンダー募金

た。また、家庭などからのご好意で寄せられたカレンダーで募金をするカレンダー募金が、県内各地で取り組まれました。

また、市民生協やまなしでは、海外旅行や出張で持ち帰ったり、使う予定がなく家庭で眠っている外国コインを組合員や県民に呼びかけて提供していただき、約9kgをユニセフ募金として寄付しました。

目の不自由な方の収穫体験

目の不自由な方がお買い物できるように、おうちCO-OP宅配事業の商品カタログ「お買物めも」をテープやCDに録音し、週に1回お届けするリーディングサービスを行っています。リーディングサービスは、1998年1月コープかながわの組合員有志がカタログの内容をカセットテープにしたことから始まりました。コープかながわ160名、コープしずおか120名、市民生協やまなし10名の方がリーディングサービスを利用されています。コープかながわでは、リーディングサービスを利用されている組合員を対象に、商品に直接触る機会をつくらせたり、試食会、商品産地の見学会などを行ったりしています。2010年10月に



落花生とさつまいもの収穫体験

は「落花生とさつまいもの収穫体験」を行いました。「落花生は土の中で実ができるの!」「土の感触がきもちいいわ!」などの歓声が上がりました。

組合員活動のひろがり コープしずおか

組合員の自主・自発の参加を広げるために、2010年度より県内を9つのエリア分け、各エリアに3~4名のエリアサポーターを配置しました。そして、コープに関心のある方ならお一人でもご参加いただける「コープひろば」を開催し、さまざまなテーマで多様な世代の方々が楽しく交流しました。エリアごとに「食」や「暮らし」をテーマに、料理講習や学習会などさまざまな企画を展開し、参加が広がっています。2011年度は、さらに開催会場を増やして開催します。

さらに、組合員の自主的活動「コープふれんず」の支援として、店舗の集会所の利用や財政の支援などに加え、託児を支援する制度も新設しました。まだまだ制度の認知度を高める課題などがありますが、各地域で多彩な活動が広がっています。

環境活動

環境の取り組み

コープかながわ

2010年度、横浜市の呼びかけに応じて、家庭のCO₂削減に向けた「環境家計簿」への参加を呼びかけました。この取り組みには1,200世帯の登録があり、そのうち512世帯から「環境家計簿」を提出していただきました。

また、自然観察会、田んぼの生きもの調査や環境学習会、行政と共同した環境展などが各エリアで開催され、環境保全を目的とした組合員活動がさらに広がりました。



田んぼの生き物調査

市民生協やまなし

2004年度から「櫛形(くしがた)山で森づくり」を行っています。

森を育てるための植林や下草刈り、また山菜とりやトレッキングなど自然とふれあう活動に組合員が楽しみながら参加しています。2010年度は、下草刈りを含む4回を実施し、組合員が自然に親しみ、自然環境の大切さを考える機会となりました。子どもたちのために、限りある資源を大切に、自然と調和する取り組みを進めました。



マツ科の樹木「ハリモミ」を植樹

環境活動の助成

コープしずおか

前年度に続き2010年度も、静岡県内で環境保全に関する活動・事業を継続して行っている民間団体に対し、お買い物袋(レジ袋)収益金の一部を原資とする助成金支援を行いました。2010年度は下表の3団体に助成を行い、大切な自然環境を守り、緑に満ちた豊かな生活を送る社会づくりのお手伝いをさせていただきます。

■2010年環境助成金の主な用途内容

	名称	助成金額 (単位:円)	活動内容	助成金の 主な用途内容
1	NPO法人 ラブ・ネイチャーズ	50,000	自然体験 活動	「子供わくわく自然体験」 の一部運営費
2	チーム:絆の森 いっぽんまつ	50,000	保安林の 保全整備	草刈器具、防護用具 購入等
3	ゆめづくり市民の会	50,000	河川浄化	運搬機レンタル費用、清掃器具 購入、EM発酵材料購入費
残金	静岡県緑化 推進協会	50,000	森づくり、学校林 整備の支援・推進	「緑の募金」
	合 計	200,000		

組合員活動のひろがり 市民生協やまなし

組合員による自主・自発の活動の広がりをめざし、「組合員活動の会」の活動は42会250名が登録し、県内各地でさまざまな活動が広がりました。多くの人が出会い、楽しみながら学びあい、教えあうネットワークが広がる活動を行っています。

※組合員活動の会とは、市民生協やまなしの組合員3名(世帯)以上が集まって自主的・自発的に「やりたいことを」「やりたいときに」「やりたいところで」実現できる集まりです。



環境の取り組み

「2020年に向けたコープの環境基本政策」を定めました。

1960年代から1980年代の環境問題は、特定の地域や企業などを対象とする公害規制が中心でした。

しかし近年の環境問題は「地球温暖化」に代表されるように、

社会・経済システムの変更を含む地球規模の大きな課題となっています。

コープは組合員や時代の要求に沿って、1980年代から牛乳パック回収運動を始めました。

さらに1990年代には車両の低公害化に取り組むなど、

さまざまな環境問題に先進的に取り組んできました。

最近では各企業でも環境の取り組みが経営の重要課題として位置づけられ、消費者の意識が高まっています。

このためコープの環境活動にも多岐にわたる役割が求められるようになってきました。

今後もコープが組合員や地域にとって必要な存在であり続けるためには、

生協の特長を生かした持続可能な社会づくりへの貢献が不可欠です。こうした社会変化を踏まえ、

このたび、コープが今後の環境活動を行う際の基本的な考え方をまとめた環境基本政策を策定しました。

「2020年に向けたコープの環境基本政策」の構成



- I 温室効果ガスの総量削減
- II 商品事業の環境配慮の方向
- III 廃棄物削減・ゼロ化をめざした取り組み
- IV 組合員・地域の環境保全活動の取り組み
- V 地域諸団体・行政との関わり
- VI 環境関連法令の順守

「2020年に向けたコープの環境基本政策」はコープのホームページからご覧いただくことができます。

環境保全活動

MSC認証を受けた水産物の販売

コープでは限りある水産資源の保護と水産物の消費を両立させる方法の一つとして、MSC 認証を受けた水産物の取り扱いを進めています。MSC 認証は、漁獲方法に配慮した持続可能な漁業を認証する制度で、世界でも基準が厳しい認証として知られています。コープでは「CO・OPたらこ」(2009年5月発売)・「CO・OP辛子明太子」(同9月発売)に加えて、2010



年度、CO・OP紅鮭スモークサーモン切落としなど5種類をおうちCO-OPで提供しています。

エコストアの推進

2010年度に開店したコープかながわ秦野曾屋店とコープしずおか下野東店は、CO₂削減を進める省エネ型の環境配慮店舗です。店舗で排出されるCO₂の90%以上が電力消費によることから、消費電力の少ない設備の導入に努め、また屋根や駐車場照明への太陽光発電パネルの設置、自然光やLED照明の活用、飲料の冷ケースの夜間運転停止など、さまざまな工夫を採り入れました。これにより、従来の設備と比べCO₂排出量が削減できました。



省エネ設備を整えたエコストア

電気自動車を導入

2010年9月23日、コープかながわのおうちCO-OP横浜西部センターに、宅配センターでは初めての電気自動車(三菱自動車 i-MiEV)を1台、営業用車両として導入しました。

電気自動車は走行中のCO₂排出量がゼロで、発電時に排出するCO₂を含めて比較しても(※)、ガソリン車の約3分の1になります。神奈川県は電気自動車の普及に積極的で、特に横浜市は急速充電設備が普及し始めています。今後の導入は、充電施設の普及状況などを見ながら検討していきます。

※今回導入の車種での比較。ガソリン車は原油の採掘から走行までのCO₂排出量で計算。



電気自動車

BDFトラック13台を横浜西部センター(横浜市戸塚区)に追加導入



BDF燃料の給油

導入されたBDFトラック

コープでは、持続可能な社会づくりに貢献するため車両の低炭素化の取り組みを進めています。コープかながわでは、2010年度に、おうちCO-OPの宅配トラックを13台、BDF(バイオディーゼル燃料=店舗事業の廃食油が原料)トラックに切り替えました。現在、2カ所のおうちCO-OP宅配センターで計22台のBDFトラックが稼働しています。

トラックに使用するBDF燃料は、コープかながわの総菜加工施設のある40店舗から出る廃食油を、関東バイオエナジー株式会社(茨城県)で燃料用に精製したものです。1台のBDF車両が1,000km走行するのに約250リットルのBDF燃料を使用しますが、植物由来の燃料であるため、植物が成長する過程ですでにCO₂を吸収しており、その量と燃焼して排出するCO₂とが相殺され、CO₂排出量はゼロと見なすことができます。

エコドライブの推進

2010年度、おうちCO-OPでは、6月の環境月間に合わせて「エコドライブ」に取り組みました。

運転中に「急加速や急発進を控える」「車両スピードを抑える」「アイドリングストップを行う」などの意識をドライバーが持ち続けることで、CO₂排出量の低減だけでなく、運転マナーの向上にもつながります。

機関誌「MIO」10月号でもエコドライブを紹介し、読者の皆さんに好評でした。



機関誌「MIO」で紹介

お買い物袋削減の取り組みと、収益金の活用

全国でマイバッグ持参の意識が高まっていますが、コープかながわは1982年、全国の生協に先駆けて「お買い物袋持参運動」を始めました。「レジ袋の無料提供をやめて、できるだけムダを無くし、その分を組合員に還元する」取り組みとして、コープしずおか(1988年)、市民生協やまなし(1992年)へと拡大し、現在はご来店いただく9割以上の方がマイバッグやマイバスケをお持ちになっています。

特に市民生協やまなしでは、2008年10月にレジ袋を原則廃止し、それ以来、お買い物袋持参率100%を維持しています。

また、コープは市や町と「レジ袋削減協定」を締結し、地域全体でのレジ袋削減にも貢献しています。

これらの取り組みにより、2010年度はコープ全体で約4,571万枚のレジ袋を削減することができました。

なお、1枚10円で販売しているレジ袋の収益金は、持続可能な環境型社会をめざすコープの取り組みや施策に活用しています。

お買い物袋持参に関する行政との協定

コープかながわ	横浜市、川崎市、横須賀市
コープしずおか	静岡市、浜松市、富士市、掛川市、磐田市、袋井市、沼津市、藤枝市、長泉町
市民生協やまなし	山梨県

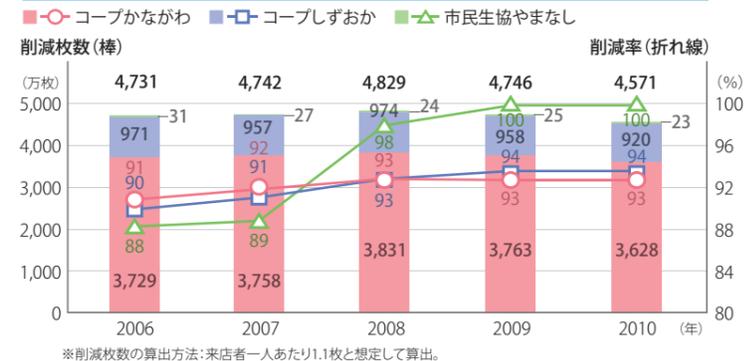
「宮城県産かき」産地の植林活動を支援

コープでは、産地指定「宮城県産かき」の産地の海を守るため、周囲の山に広葉樹を植林している「石巻グリーングローブの会」を応援しています。広葉樹(ブナ・桜など)の林では、落ち葉が分解して腐葉土になります。そこに含まれるミネラル分が雨水とともに海に流れ出て、たくさんの生き物が生息できる豊かな海をつくるのです。

コープでは2004年より生産者と共同で、かきの供給代金から1パックごとに1円を「石巻グリーングローブの会」へ寄付してきました。さらに、2010年度はCO・OP洗剤のメーカーの協賛を得て「CO・OPの洗剤を買って森を育てようキャンペーン(5月~10月)」を実施し、約44万円をお渡しすることができました。これまでの7年間で「石巻グリーングローブの会」に約158万円(約1,000本分の苗木代)を寄付しています。

東日本大震災では、植林をしている森は、ほとんど被害はあ

お買い物袋(レジ袋)削減状況



2010年度レジ袋販売枚数

コープかながわ 2,673,013枚 コープしずおか 613,847枚

2010年度レジ袋収益金の活用状況

	コープかながわ	コープしずおか
収益(10円×販売枚数-原価)	20,150 *1	3,453
お買い物袋持参運動の推進(新規加入者へのエコバッグプレゼント)	3,753	1,519
環境キャンペーン推進(「1日エコライフ」チャレンジシート作成、プレゼント費用など)	1,553	1,136
リサイクル推進(透明容器回収案内など)	2,229	1,008
店頭リサイクル推進(回収用ポリ袋)	3,631	-
組合員環境活動支援(観察会、環境講演会、環境グループ活動支援、環境パンフ作成など)	3,734	534
諸団体環境活動支援 *2	600	200

※市民生協やまなしでは、2008年10月からレジ袋を原則廃止(無料配布も販売もしない)しているため、収益はありません。

*1 2009年度の繰越金179万円を含みます。

*2 支援先 コープかながわ: (財)かながわトラストみどり財団、かながわ海岸美化財団/コープしずおか: NPO法人ラブ・ネイチャーズ、チーム: 絆の森いっぽんまつ、ゆめづくり市民の会、静岡県緑化推進協会

りませんでした。「石巻グリーングローブの会」のメンバーの皆さんの中で、立ち上げに関わったご夫婦がお亡くなりになりました。

メンバーの皆さんは、これからも海の栄養となるような森を育て、市民が集えるような環境をめざして活動を続けられるとのことです。コープは、これからも応援していきます。



植林された広葉樹



CO-OPの洗剤を買って森を育てようキャンペーン(5月~10月)

廃棄物の削減

リサイクルの考え方

コープのリサイクル活動は「限りある資源を大切にしよう」という組合員の声により、1985年に牛乳パックの回収*からスタートし、その後も組合員の要望に応じてリサイクル回収品を増やしてきました。

コープでは、「リサイクルルートの設定」「回収の効果」「費用負担」「社会の要請」などを総合的に判断してリサイクルを推進していますが、可能な回収品目には限りがあります。そこで、並行して行政へ社会的なリサイクルシステムの充実化を要望したり、メーカーに容器包装の削減、回収の協力をお願いするなどの働きかけをしています。

* コープかながわは1985年、コープしずおかは1988年、市民生協やまなしは1991年にそれぞれ開始しました。

リサイクル回収品

おうちCO-OP (宅配)では	牛乳パック、食品トレイ(発泡)、個人別セットポリ袋、お買物めも・チラシ類、注文書、卵パック
店舗では	牛乳パック、食品トレイ(発泡・透明)、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、小形充電式電池、ボタン電池

透明容器の回収・リサイクルを開始

2010年6月より、店内で総菜を製造する店舗*に透明容器専用のリサイクルボックスを設置し、総菜の透明トレイ・ふたの回収を開始しました。回収した透明容器はリサイクル工場に送られ、素材ごとに自動選別機で分別の上、ペレット(溶かして粒状にしたもの)やフレーク(粉砕したもの)にし、再生容器・再生トレイに加工されます。



透明容器

2010年度の回収量は14

トンで、目標とした52トンを大きく下回りました。このため今後も継続的にお知らせを行い、組合員のリサイクル意識の向上を図っていきます。

* 透明容器の回収を行っている店舗は、2011年3月現在、コープかながわ39店舗、コープしずおか20店舗、市民生協やまなし1店舗

店舗でノントレイの精肉の供給を開始

2010年8月、一部の店舗*で、精肉をノントレイ・袋入りで販売する取り組みを始めました。対象商品は、組合員に人気の高い、コープの産地指定「はぐみ鶏」若鶏モモ肉1枚と、産地指定「茶美豚(チャーミーポーク)」小間切れ約200gの2品です。売場にトレイ入り商品と隣り合わせて陳列し、好きな方を選べるようにしています。

また、コープの宅配事業「おうちCO-OP」でも、可能な限りトレイを使わないパッケージ形態で精肉をお届けしています。たとえば、お肉の鮮度と品質を守るフレッシュパックの場合、パック中の空気を静菌作用のある二酸化炭素の割合を高めた気体に置き換えて密封包装しています。

* 店内に精肉加工施設を持つ店舗(2011年3月現在、コープかながわ11店舗、コープしずおか1店舗)



ノントレイ・袋入りの精肉



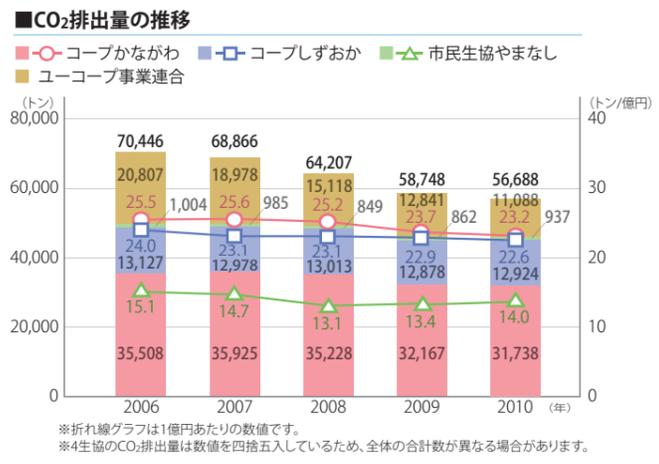
精肉のフレッシュパック

2010年度のリサイクル実績

2010年度は1年間で約7,784トンの資源をリサイクルすることができました。全体では、2009年度に比べて0.3%減少しました。行政回収などのリサイクルがすすみ、店舗での回収量は減っていますが、宅配では紙類、ポリ袋の回収量が増えています。

地球温暖化防止自主行動計画の推進

2004年度に、日本生協連を主体とする生協の地球温暖化防止自主行動計画を策定しました。3カ年計画(2009~2011年度)に沿って4生協統一で電気・ガス・車両燃料や廃棄物の削減に取り組んだ結果、2010年度は1億円あたりのCO₂排出量を28.3トンと2002年度比で20%削減し、2010年度の目標(2002年度比11.9%削減)を達成することができました。



2010年度リサイクル実績

■ コープかながわ ■ コープしずおか ■ 市民生協やまなし

品目	ルール	回収量の推移	回収率	節約効果	再生品
牛乳パック (店舗・宅配)	1.洗う 2.開く 3.乾かす	(年) (単位: 万枚) 2007 1,336 397 49 1,782 2008 1,142 381 57 1,580 2009 1,175 366 44 1,585 2010 1,087 340 41 1,468	35%	立ち木 8,633本分	トイレ ペーパー など
発泡スチロール トレイ (店舗・宅配)	1.洗う 2.乾かす	(年) (単位: 万枚) 2007 2,244 697 21 2,962 2008 2,284 710 23 3,017 2009 2,077 681 22 2,780 2010 1,910 719 16 2,645	58%	原油 38.1万ℓ分	トレイ、 植木鉢
透明容器 (店舗)	1.洗う 2.乾かす 3.ラベルなどを はがす	(年) (単位: 万枚) 2007 58 51 0.2 110 2008 51 51 0.2 110 2009 51 51 0.2 110 2010 51 51 0.2 110	3%	原油 3.4万ℓ分	原料(ペレット) など
スチール飲料缶 (店舗)	1.洗う 2.乾かす	(年) (単位: 万缶) 2007 50 49 0.1 99 2008 48 49 0 97 2009 45 48 0.1 93 2010 40 36 0.1 75	83%	12世帯の 1年分の 電気使用量	建築材など
アルミ飲料缶 (店舗)	1.洗う 2.乾かす 3.つぶす	(年) (単位: 万缶) 2007 201 257 0.1 458 2008 201 226 0 427 2009 210 226 0.3 436 2010 222 262 0.1 484	32%	451世帯の 1年分の 電気使用量	サッシーや アルミ缶 など
ペットボトル (店舗)	1.洗う 2.乾かす 3.つぶす	(年) (単位: 万本) 2007 315 283 3 601 2008 298 279 3 580 2009 290 253 2 545 2010 296 274 3 573	47%	原油 4,536.2万ℓ分	卵パック、 水切りごみ袋、 繊維など
卵パック (宅配)	ラベルを 取って 各々重ねる	(年) (単位: 万パック) 2007 72 34 15 121 2008 75 43 15 133 2009 68 40 12 120 2010 45 44 11 100	16%	原油 281.0万ℓ分	卵パックなど
宅配注文書 (OCR用紙)	注文がない 時でも ×して出す	(年) (単位: 万枚) 2007 1,133 686 105 1,924 2008 1,453 877 143 2,473 2009 1,230 733 117 2,080 2010 1,264 746 138 2,148	84%	立ち木 5,800本分	トイレ ペーパー など
お買物めも・チラシ (宅配)	お買物めも、 チラシだけ	(年) (単位: 万冊) 2007 507 355 89 951 2008 528 399 79 1,006 2009 584 406 90 1,079 2010 570 415 93 1,077	45%	立ち木 124,507本分	トイレ ペーパー など
個人別セット用 ポリ袋 (宅配)	1.紙シールを 切り取る 2.たたむ	(年) (単位: 万枚) 2007 1,131 779 107 2,017 2008 1,143 863 121 2,127 2009 1,501 1,361 139 3,000 2010 1,723 1,292 153 3,168	32%	原油 45.8万ℓ分	マーカーペン、 ハンガー など

* 回収量は小数点以下を四捨五入しているため、3生協の合計数値が異なる場合があります。

働く職員とのかかわり

一人ひとりのキャリア開発の視点を大切にしながら、ワークライフバランス実現のための各種福利厚生制度の充実を図り、事業を支える人づくりを進めています。

雇用状況

正規職員およびパート職員、学生アルバイト職員などの雇用形態をとっています。定年退職後も就労を希望し、健康状態などの基準を満たした場合は再雇用として、65歳までシニア職員やシニアパート職員として雇用を継続しています。なお、ユーコープ事業連合の正規職員は3生協の出向者で構成されており、直接採用はしていません。

新入職員の採用にあたっては、中期的な人員計画に基づく採用を進めています。なお、この3年間に正規職員として採用した新卒採用者のうち、女性の採用比率は、コープかながわ29.2%、コープしずおか24.1%、市民生協やまなし66.7%となっています。

2010年度の障がい者雇用率は、コープかながわ、コープしずおかいずれも法定雇用率を達成しています。

人事制度・人材育成

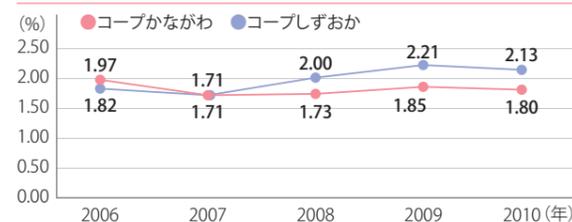
役割等級制度

正規職員の処遇制度に関しては、「役割等級制度」を導入しています。担う職務の役割と責任を基準として処遇する制度であり、仕事の質や専門性を高める動機付けに結びつけています。また、課長職未満に関しては、基本給(年齢給)も導入しています。

雇用形態別、男女別 職員数(2011年3月20日現在)

	正規職員		シニア職員		定時職員 (パート・アルバイト)		シニアパート 職員		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
コープかながわ	570	47	19	1	1,316	4,793	5	484	7,235
コープしずおか	313	26	4	0	156	1,866	2	124	2,491
市民生協やまなし	51	2	1	0	15	137	0	2	208
ユーコープ事業連合	370	74	13	3	21	287	0	132	900

障がい者雇用率の推移



パート店長制度

職員・パート職員それぞれの能力を引き出し、活用を図ることはもちろん、男女共同参画の視点からもパート職員の能力が生かされる組織をめざしています。2010年度末現在、小型店55店舗中48店舗でパート職員が店長職を担っています。パート職員にとって役割発揮ができる職務であると同時に、基本的に事業所の近隣に居住していることから、地域に根ざした店舗運営が行われ、組合員からも好評を得ています。

「個人と組織の共生」のために

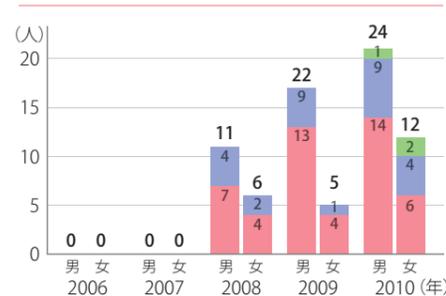
コープには「人間にとって本来、仕事は喜びであり、その達成を通じて自らを成長させるもの」という人間観があります。人材育成は「個人と組織の共生」を作り上げることをねらいに進めています。職員一人ひとりの成長が組織の発展に結びつくことから、仕事の意義・意味を明確にして、個々の職員の成長を支援しています。そのため、「人材育成委員会」において、能力、適性などを確認・発見し、一人ひとりに合った育成方向を多面的に審議しています。

3つのスキル向上

コープでは、「ヒューマンスキル(人間理解能力)」「テクニカルスキル(専門能力)」「コンセプチュアルスキル(概念化能力)」が不可欠と考え、総合的な人材育成を行っています。

特にどの階層の職員にとっても必要で求められるヒューマンスキルの向上を最大の柱に据え、多種多様な研修を実施しています。

新卒採用者数(男女比)の推移



※2006年、2007年は、採用を行いませんでした。
 ※市民生協やまなしは2009年まで採用を行いませんでした。

ワークライフバランス

育児休職制度

男女を問わず子育てをする職員に育児休職を保障することで、その職員の継続的な就労や、育児と仕事の両立支援を行っています。

育児休職の取得期間は、正規職員の場合、育児対象者の小学校就学前までとし、2人目以降の出産を含めて通算で8年間*まで取得することができます。なお、パート職員の場合は、育児対象者が1歳になるまでの期間となっています。

*市民生協やまなしの正規職員は6年間です。

子育てにやさしい企業として認定されました

～コープしずおか～

コープしずおかでは、男女を問わず働きやすい環境づくりとして、育児時短の取得期間拡充や、男性職員に対する育児休暇制度の周知・取得促進、残業時間の削減、子育て支援講座の実施などに取り組んでいます。このような取り組みが評価され、2010年9月に静岡県労働局(厚生労働大臣から委託)より「次世代育成支援対策推進法」に基づいた子育てにやさしい「子育てサポート企業」として認定を受けました。

現在コープかながわ、市民生協やまなし、ユーコープ事業連合でも、同様に取り組みを進めています。



次世代育成支援認定マーク「くるみん」でアピールします!

これからの働き方検討タスク

～市民生協やまなし～

市民生協やまなしではワークライフバランスの見直しをテーマに、各事業所の働きやすい環境づくりや休日の過ごし方、ON とOFF の切り替えなどを共有する「これからの働き方検討タスク」を継続的に開催しています。

メンバーは各事業所の職員・キャリアパートで構成し、2010年度は年間5回開催。有給休暇の計画的な取得や残業状況を確認し、働き方に対する意見交換を行い、ワークライフバランスの見直しを進めています。

育児休職者数

	制度開始からの取得者数		復職者数	
	正規職員	パート職員	正規職員	パート職員
コープかながわ	138 (7)	31	87	15
コープしずおか	35 (1)	4 (0)	31	4
市民生協やまなし	5 (0)	0 (0)	4	0

(): 男性職員の数

育児休職者数の推移



介護休職制度

家族の介護のための休職制度を定め、職員が仕事と生活を両立できるように支援しています。休職期間は、正規職員は1年間*、パート職員は93日間を限度に取得できます。

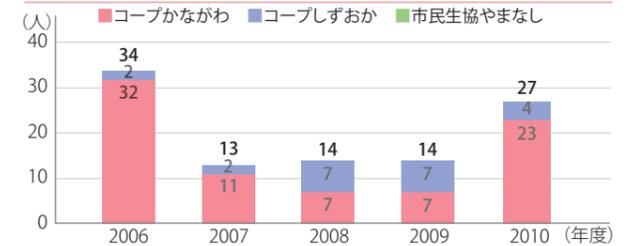
*市民生協やまなしの正規職員は93日間です。

介護休職者数

	制度開始からの取得者数		復職者数	
	正規職員	パート職員	正規職員	パート職員
コープかながわ	27 (25)	240 (0)	25	190
コープしずおか	3 (2)	57 (0)	3	57
市民生協やまなし	1 (1)	0 (0)	1	0

(): 男性職員の数

介護休職者数の推移



労働安全衛生の取り組み

人命を尊重することは社会的責任の一つです。事業主責任としての安全配慮義務の視点から、「作業管理」、「作業環境管理」、「健康管理(健康づくり推進)」、「安全衛生教育」の労働安全衛生活動4つの視点を、事業運営の基本に位置づけています。2010年度に発生した業務災害は174件(前年差15件減少)でした。2011年度も「労災ゼロ」をめざし、引き続き5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の推進、安全教育の強化(OJTガイドに基づく新人教育等)、リスクアセスメント、ヒヤリハット、災害事例の情報共有化の取り組みをすすめます。

業務災害件数

	発生件数	前年差
店舗	88件	4件減少
宅配センター	51件	21件減少
本部*	12件	±0
関連会社	23件	10件増加
合計	174件	15件減少

*かながわ福祉とユーコープ瀬谷工場は本部に含む

重点削減災害の状況

つまづき・転倒事故
2010年度34件(前年45件)前年差▲11件 前年比75.5%
主な起因物 階段、キャリア、マット、床(水濡れ) など
切創事故
2010年度26件(前年32件)前年差▲6件 前年比81.2%
主な起因物 包丁、カッター、スライサー、かぼちゃカッター など
無理な動作腰痛事故
2010年度22件(前年27件)前年差▲5件 前年比81.5%
主な起因物 シッパ、プラ箱、商品、買い物カゴ など

業態別災害の特徴

店舗	大中型店は前年を1件上回ったが小型店が半減し、トータルでは前年比96%と前年を4件下回った。
宅配センター	前年比71%と大きく減少した。
本部※	福祉事業部は前年比57%と半減した。
関連会社	(株)コープデリバリーは新規事業所の開設もあり、新人の労災が増加し、前年比240%と悪化した。 (株)コープライフサービスは労災ゼロを達成した。

※かながわ福祉とユーコープ瀬谷工場は本部に含む

労働組合の状況

コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしでは、それぞれで労働組合が組織されており、正規職員およびパート職員によって構成されています。ユーコープ事業連合は、正規職員は出向元の各生協の労働組合に組織され、パート職員は直接雇用ですが、勤務先事業所の属する労働組合に組織されています。各生協とも労働条件などは、春・秋の団体交渉および毎月の定例協議によって解決しており、労使関係は円滑に推移しています。

3生協の労働組合(2011年4月現在)

	名称	組合人数
コープかながわ	かながわ生協労働組合	5,358名
コープしずおか	生協しずおか労働組合	1,876名
市民生協やまなし	市民生協やまなし労働組合	193名

コープのコンプライアンス

倫理綱領と自主行動基準

コープでは、基本理念および基本的価値に基づきコンプライアンス経営*を進め、コープの社会的責任を果たしていくために何を重視して取り組むかを「倫理綱領」として定めています。さらに、この倫理綱領に基づき、役職員が日常業務の遂行にあたって順守すべき具体的な行動のあり方を示したものが「自主行動基準」です。

*コンプライアンス経営 法令、社内規範の順守や、そのための組織体制の整備を含めて「コンプライアンス」といい、経営者トップが関与した上でのコンプライアンス重視の企業経営を「コンプライアンス経営」といいます。

詳しくはユーコープホームページをご覧ください。
<http://www.ucoop.or.jp/profile/csr/kijun.html>

直接通報・相談制度(コンプライアンスコール)

直接通報・相談制度は、通称を「コンプライアンスコール」といい、コープにとってリスクとなる法令や内部ルールに違反することや、職場内での解決が困難な問題について通報・相談を受けて対応し、問題解決や発生予防を図るものです。コンプライアンス経営を進める上で、監視機能を果たす重要な制度であるとともに、働きやすい職場環境づくりに役立っています。



「コンプライアンスコール」ポスター

2010年度通報・相談受付の件数

	店舗	うちCO-OP 宅配センター	本部	工場・ セットセンター	会社他	総件数
コープかながわ	34(25)	6(8)	2(1)	-(-)	2(2)	44(36)
コープしずおか	8(10)	5(6)	0(0)	-(-)	1(0)	14(16)
市民生協やまなし	0(1)	3(1)	0(0)	-(-)	0(0)	3(2)
ユーコープ	-(-)	-(-)	0(1)	7(4)	5(3)	12(8)
不明・他	1(1)	1(-)	0(1)	0(0)	1(0)	3(2)
合計	43(37)	15(15)	2(3)	7(4)	9(5)	76(64)

2010年度通報・相談内容の内訳

	不正行為	法令違反	内部ルール 違反	セクシャル ハラスメント	パワー ハラスメント	職場運営	労務管理 その他
コープかながわ	1(0)	1(0)	3(6)	1(1)	6(10)	4(16)	29(14)
コープしずおか	0(1)	0(0)	1(4)	0(1)	1(3)	3(6)	14(6)
市民生協やまなし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	1(0)	2(0)
ユーコープ	0(2)	1(1)	0(2)	0(0)	3(1)	4(1)	5(3)
不明・他	0(1)	0(0)	1(0)	0(0)	0(1)	2(4)	1(0)
合計	1(4)	2(1)	5(12)	1(2)	10(16)	14(27)	51(23)

※内容区分は通報者からの通報・相談区分であり、確定項目ではありません。

IMSによる業務執行

コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなし、ユーコープ事業連合は、組合員の声に応えるための事業力の強化と効率化をめざし、IMS*(統合マネジメントシステム)による一体的業務執行を進めています。

IMSは、経営基本方針の徹底をはじめ、コンプライアンス、個人情報保護、環境、品質、食品安全などを含む、事業上のさまざまな課題を達成するために、計画を作り、役割・責任・権限を決め、実行し、見直しをしていく、という事業のしくみです。コープは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の考え方にに基づき、システムの対象を「環境」から「事業全体」に拡大してIMSとして運用し、4生協統合でISO14001の認証を取得しています。

*IMS Integrated Management System の略

お取引先とのかかわり

コープは、社会的責任を果たしているお取引先を重視し、公正で透明・自由な取引を行い、パートナーとして誠実に接してまいります。

商品開発・調達の基本方針

コープは「より良い暮らし」を実現するために、商品の開発や調達に努めています。普段の暮らしに必要な商品とサービスのために、お取引先の皆さまのご協力のもと最善を尽くしています。組合員に信頼される商品を提供するためには、お取引先の選定や関係が要となります。コープでは以下の「お取引先に対する行動基準」を設けています。

お取引先に対する行動基準

私たちは、社会的責任を果たしているお取引先を重視し、公正で透明・自由な取引を行います。

- お取引先には対等なパートナーとして誠実に接します。
- 法令を守り公正な取引を行います。
- お取引先の選定は、情実によることなく、品質・価格・安全などを公正に比較して行います。
- コンプライアンスに取り組んでいるお取引先を重視します。
- 合意した取引条件は、文書で確認し、順守します。
- 優越的な地位に基づく契約外の強要を行いません。
- お取引先からの金品・接待は、求めたり、受けたりしません。
- 不公正な取引をなくすために「コンプライアンスコール」により誠実に対応します。

お取引先専用 コンプライアンスコール

コープは自主行動基準に基づき、お取引先への責任を確実に果たしていくために、お取引先専用のコンプライアンスコールを開設しています。お取引先専用コンプライアンスコールは「通報者の保護」「通報促進」をはかるため、外部の第三者機関に業務委託を行っています。特に、以下のような内容についてご通報いただけるよう、願っています。

- ①コープとその関連会社にかかわる、法令・契約違反や社会的な倫理規範に反する行為
- ②組合員(消費者)および社会の信頼を損なう可能性のある内容

通報が寄せられた場合は迅速に慎重な調査を行い、積極的に解決をはかるようにしています。2010年度は、通報はありませんでした。

MD*研究会

「ポスリングシステム」(お取引先へのユーコープPOSデータ提供の仕組み)を活用したMD改善の取り組みとして、2007年度から「MD研究会」を開催しています。2010年度は5回開催し、延べ457社・754名が参加され、25件のMD改善提案と27件の結果報告をいただきました。お取引先と共同で組合員に支持される最適な品揃えと売場づくりをすすめています。

*MD=マーチャндаイジング。商品の開発から提供までの流れをデザインし、コントロールすること。



ユーコープ協会総会でのMD研究会事例発表の様子

ユーコープ協会

ユーコープ協会は、お取引先とユーコープ事業連合相互の親睦と情報交流を行う会員組織です(2010年7月現在304社が会員となっています)。組合員の暮らしの向上に貢献することを通じて、共存共栄を目的としています。2010年度は、お取引先と協力して以下の取り組みなどを行いました。

- ①応急生活物資協定先への訪問を行い、災害時における応急物資の見直し・連絡方法の確認などを行いました。
- ②品質管理・保証の取り組みでは、商品仕様書の最新版管理の取り組みを協力してすすめました。
- ③お取引先専用のコンプライアンスコール制度の普及やお預かりした個人情報の管理状況調査などを行いました。

コープの事業

コープは神奈川・静岡・山梨、3県に暮らす人々のより良い「食」と「暮らし」に貢献するため、商品・サービスの供給事業を中心とした事業活動をすすめています。



店舗事業

3生協で141(2011年3月20日現在)の店舗を運営しています。2010年度商品供給高は903億円で、来店者数は4,555万人でした。組合員に支持されている月末市・大感謝祭、15の市、木曜市などのプロモーションを強化し、コープ商品の集合展開による価格訴求などに取り組みました。

2009年度から取り組み始めた「営業力強化店舗」として、新たに2店舗(コープかながわ秦野曾屋店、コープしずおか下野東店)を出店しました。鮮度のよい野菜・果物など、地域一番価格をめざします。また比較購入されやすい商品を中心に他店に負けない価格で販売しています。そのほか低価格で品質のよいコープ商品を大量陳列して露出を高めるとともに、平台や可動式ゴンドラの活用で作業の効率化を進めています。



営業力強化店舗(コープしずおか 下野東店)



焼きたてパンを99円均一で提供(コープかながわ 秦野曾屋店)

■コープの店舗(2011年3月20日現在)

大型店 450坪以上	25店舗	食品から日用雑貨まで2~3万品目の豊富な品ぞろえ
中型店 450坪未満	56店舗	食品を中心にした毎日の食卓を支える品ぞろえ
「ミアクチーナ*」 タイプ	(19)店舗	(通常の大型店・中型店より、総菜・鮮魚など生鮮食品を強化)
小型店 50坪	60店舗	コープ商品を中心に生活必需品約1,500品目の品ぞろえ

*コープしずおかでは「ミアクチーナ」の愛称を使用しています。

宅配事業「ouchi CO-OP」

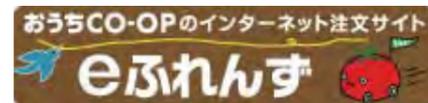
宅配事業「ouchi CO-OP」は、食品を中心に毎週1,800品目以上の商品を商品カタログ「お買物めも」などでご案内し、神奈川県、静岡県、山梨県の46万世帯以上にご利用いただいている宅配サービスです。2010年度商品供給高は、1,031億円となりました。

「お買物めも」では、組合員からの商品おすすめコメントや料理レシピを「あっ、これこれ品質!」として掲載し、組合員の声を生かした親しみやすい紙面づくりを進めています。

また、お届けの前日収穫など鮮度にこだわった野菜・果物をお届けする「とれたてシャキット便」や、組合員の暮らしを守るお買得商品「いつもおトク」、その週一番のおトクなお買得価格商品「ギリギリ特価」を展開しています。

インターネット注文サイト「eふれんず」は2010年11月にリニューアルを行い、インターネット注文者の割合が順調に増えています。2010年度末のeふれんず利用人数構成比は14.8%、供給高構成比16.2%でした。またリニューアル後の新たな取り組みとしてインターネット限定のタイムセールを実施しています。商品によってはセール開始後すぐに完売するものもあり好評です。

個人宅配の宅配サービス料は毎週105円の定額制です(3人以上のグループ宅配では無料)。赤ちゃんのいるご家庭や高齢者の世帯、障がいをお持ちの方がいらっしゃる世帯には



宅配サービス料の割引制度があり、無料から半額でご利用できます。

赤ちゃんのいるご家庭をサポートする子育て応援カタログ「ディアママ」は、ママのコメントや赤ちゃんの写真を取り入れたみんなの声でつくる商品カタログです。



子育て応援カタログ「Dear mom」

保障事業

共済事業は、組合員のくらしのさまざまなリスクに対して「組合員相互に助け合う」という精神のもと、経済的給付による「くらしと家計の安心」への貢献をめざしています。全国の生協とともにCO・OP共済「たすけあい」「あいぶらす」「火災共済」の普及をすすめ、2011年度は、組合員の念願であった終身共済が誕生します。2010年度の共済加入件数はコープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしの3生協合計で3.7万件、累計では40万を超える共済加入件数となっています。

コープの子会社の(株)コープライフサービスは、保険事業やチケット販売・ハウジング事業などにより組合員にサービスを提供し、安心して快適・楽しいくらしづくりをお手伝いしています。

福祉事業

コープかながわ

コープかながわでは、横浜市、相模原市、川崎市において9カ所のケアサポートセンターを拠点に、高齢者や障がいをお持ちの方への訪問介護事業(ホームヘルプサービス)・居宅介護支援事業(ケアプラン作成)・通所介護(デイサービス)・福祉用具貸与販売事業の4事業の福祉サービスを提供しています。

2010年度の利用高は7.9億円(昨年比104.8%)、利用者数はのべ25,902名(昨年比105.3%)でした。2009年4月の介護報酬改定を受けた特定事業所加算の取得は、訪問介護で全事業所、居宅介護で4事業所となっています。特定事業所加算とあわせて利用者拡大、事業運営の効率化により2010年度の経常剰余は+1,742万円と、事業開始後、初めての黒字化を実現できました。

サービスの質を高めるために、計画的にスタッフの研修を行っています。1年間の延べ研修参加者は5,251名(計画比114.2%)でした。

情報通信研究機構(NICT:総務省)の助成研究開発事業と

して行った「高齢者・障害者へのサービスレベル向上のための訪問介護支援システム」の研究開発も無事終了し、評価委員および総務省へのプレゼンテーションも行いました。2011年度よりシステムを実用化します。



ケアサポートセンター青葉 デイサービスの様子

葬祭事業

コープかながわ コープしずおか

コープかながわでは1995年に神奈川県内22生協の共同出資により、(株)コープ総合葬祭を設立しました。この間に15,700件を超える葬儀実績を積み、全国の生協でもコープとうべに次ぐ2位の利用実績となっています。また、トータルサービスとして実施している、組合員の学習会開催(2010年度の参加者は10,787人)と葬儀後のサービス(仏壇、返礼品ギフト、墓石工事、霊園紹介など)は全国でトップクラスの実績で、組合員の支持を得ています。県内2カ所に、現代風の仏壇を展示した「ギャラリーメモリアゆきげ」を持ち、実物を見ながら選べるようになっています。

また、ご利用者の悲嘆回復支援(グリーフサポート)の取り組みは全国生協の葬祭事業でも唯一の取り組みで、社会的にも注目され、サポートを受けた組合員から高い評価を受けています。

コープしずおかでは、コープの趣旨に賛同する県下20の葬儀社と提携し、消費者・ご遺族の立場に立った“その人らしい”お葬式ができるよう葬祭サービスを提供しています。

特に、提携社と共同で運営する組合員向けのセレモニーホール「ラビユー会館」を藤枝市、焼津市、富士宮市、富士市、沼津市(2010年秋オープン)の5カ所で展開し、「ラビユー会館」で200件の葬儀をお手伝いいたしました。ラビユー会館を利用された方から「希望通りの温かい家族葬ができて、感謝しています」などの声が届いています。さらに、2011年度は、秋に島田市でのオープンを予定しています。

また、葬儀の学習会や若い世代セミナーの開催、事前相談・お見積りや相続の相談、遺品整理など、関連サービスも充実させています。



エコ棺&ミニ学習会の様子(コープかながわ)

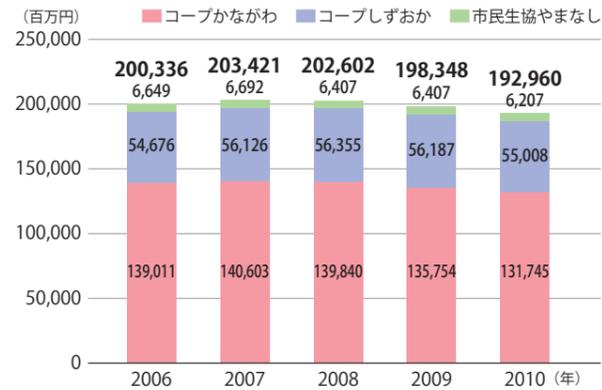


「ラビユー焼津」での家族葬学習会(コープしずおか)

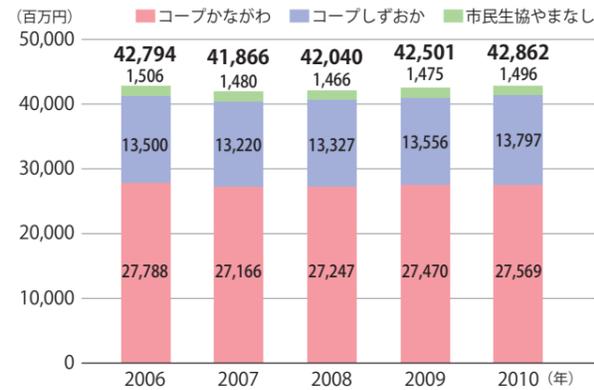
財務報告

2010年度末の3生協(コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなし)全体の組合員数は177.5万人、供給高は1,930億円、出資金は429億円です。また、ユーコープ事業連合の会員生協に対する出荷高は1,493億円です。

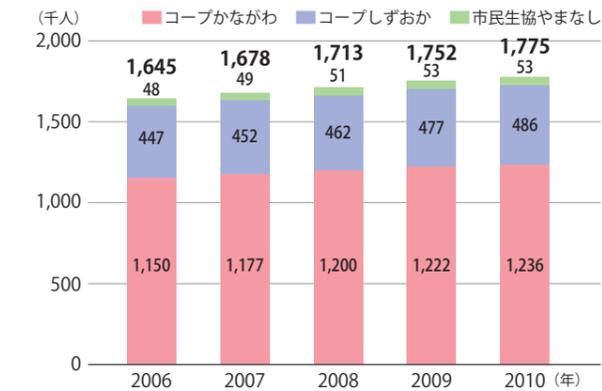
供給高



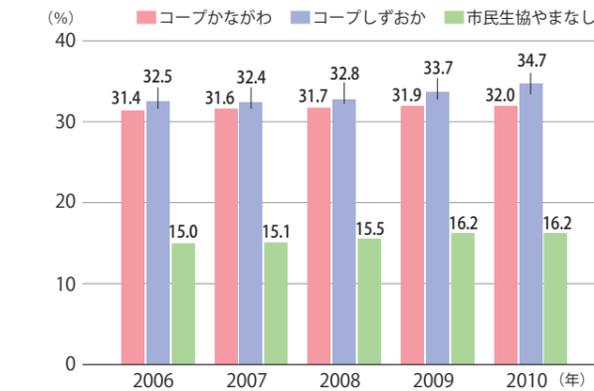
出資金



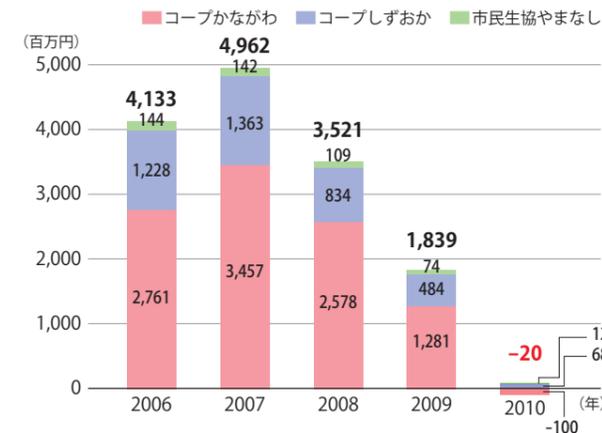
組合員数



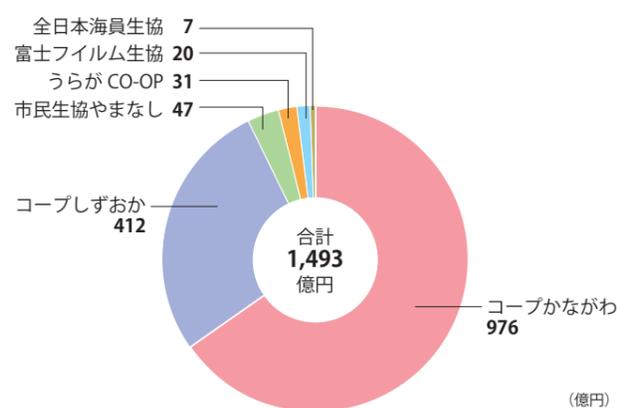
組合員組織率



経常剰余



ユーコープ事業連合の出荷高内訳



第三者意見

NPO法人サステナビリティ創造研究会 理事長
(法政大学 大学院環境マネジメント研究科 教授)



向井 常雄

ユーコープ事業連合のCSR報告書2011は、統合マネジメント方針に定める基本理念「人-社会-自然の調和ある平和な社会の実現」に向けて確実な前進を伺い知ることができ、前年度の報告書より読みやすく、第三者にとって理解しやすい内容になっています。

また、基本方針とする「安全・安心、正直、誠実、公開、他人への配慮、安全衛生リスクの低減、汚染の予防」が具体的に意図されており、利害関係者に対して適切なCSR報告書であることを第三者として検証いたしました。

下記に、「主な評価できる事項(良い点)および改善事項(今後改善が期待される点)」および「総合コメント」を示しますので、今後の活動にご参考ください。

■主な評価できる事項(良い点)

- 1) 巻頭の「トップメッセージ」では、グローバルな視野で国際協同組合の一組織として事業を展開して行くこと、前年度のケアレス不適合問題からコンプライアンス意識を持続的に見直して行くこと、そして、東日本大震災復興支援をきっかけに「つながり・絆・助け合い」を広く利害関係者と共通価値観を持って、地域社会づくりに役割を果たして行くことを宣言されています。これは、事業連合組織内外の利害関係者に「ユーコープ事業連合のビジョン」を分かりやすく、明快に示したトップ声明として高く評価できます。
- 2) 「みるくぼきん」、「フェアートレードバナナ」、「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」などは、組合員や店舗顧客が「コープ商品購買を通じて国際社会への貢献に直接的インセンティブな役割を果たしている」ことがよくわかるユーコープ事業連合のCSR事項です。
- 3) 東日本大震災復興支援への取り組みは、ユーコープ事業連合の組織力・身の丈に合った・コープだからできる具体的実施支援であり、「がんばれ日本!」ではなく、「一緒に頑張るぞ!」の意図が表われた報告となっており、今後も可能な限りの継続が望まれます。
- 4) 過去の「ケアレス不適合問題」を敢えて取り上げて、「食の安心」、「家計の安心」、「くらしの安心」をコアとした品質管理、危機管理を、昨年設立した「組合員改善委員会」で見直し、改善・改革した結果として、「全体の取り組み」、「店舗での取り組み」および「おうちCO-OPでの取り組み」に区分し、CSRとして具体的な改善取り組み対策となっていることがよく理解できます。
- 5) 「食育、子育ての活動」および「福祉・助け合い活動(地域を知る活動、キッズのための認知症がよくわかる講座、外国コインでユニセフ募金)」などは、組合員や店舗顧客が日常あまり広く認識していないコープ活動だと思います。こうした情報発信は、トップ声明を具体的に展開させ、実現させるものにつながるものになりましょう。

■主な改善事項(今後改善が期待される点)

- 1) 事業連合組織内外の利害関係者と協力して「トップメッセージ・声明」を確実に展開させ、達成させて行くための活動内容や利害関係者からの意見・コメントの受付から検討のプロセスを紹介する情報があると、利害関係者と共通価値観の視点から円滑な展開・達成につながりうることが期待されます。
- 2) 「トップメッセージ・声明」の中で、ユーコープ事業連合の組織力に合った「CSRの定義およびビジョンに沿ったCSR目標」を明確に公表しておくことと利害関係者の理解と協力が得やすくなるものと考えます。
- 3) ユーコープの事業連合の地域(神奈川、静岡、山梨)ごとの特徴・特性に合わせたCSR活動目標が示されていると、各地域の特性に合った利害関係者(組合員、店舗顧客など)の協力が得られることが期待されます。
- 4) 前回もコメントしましたが、環境データに関して、フードマイレージ*1、カーボンフットプリント、ウォーターフットプリント、ウェイトフットプリント*2などの考え方を含めた分析評価を徐々に取り入れて行くと、利害関係者にはより一層の地球環境保全への貢献性を理解してもらえるものと考えます。

■総合コメント

前記のごとく、主な良い点および望ましい改善点にかかわるコメントを含め「2011年度ユーコープ事業連合CSR報告書」の適切性を検証しましたが、今後のユーコープ事業連合サステナブル*3 経営のために、次のようなCSRの取り組みをリコメンドいたします。

来年度は、トップメッセージ・声明にも述べられているように、国連の定める「2012国際協同組合年」にあたりますので、これに合わせた具体的な取り組みを利害関係者と協働で推進していくことがグローバルコープの一員として望まれます。

また、1992年リオデジャネイロ地球環境サミットで決議された「気候変動枠組条約」に基づく国際的な省エネ・CO2削減については、当組織も確実に対応を図り、報告されていますが、同サミットで同時に決議された「生物の多様性に関する条約」に関する取り組みにもコープCSR活動として何が社会貢献できるかも配慮する時期に来ていると考えます。

これらは2012年度CSR報告書に反映されることを期待いたします。

*1 フードマイレージ…食料産地から消費地までの輸送距離
*2 カーボンフットプリント、ウォーターフットプリント、ウェイトフットプリント…製品のライフサイクル中に排出使用される物質(CO2、水、廃棄物)の総量を表示するしくみ
*3 サステナブル…持続可能な